3 章

全ての子供の笑顔を育む
子供政策の加速に向けて

3 章

全ての子供の笑顔を育む
子供政策の加速に向けて

1. 組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト

2. 子供政策強化に向けた重点アクション

3. 区市町村との更なる連携強化

組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト

既存の枠組みでは対応が難しいテーマごとに、**子供政策連携室が核**となり、**政策分野の垣根を越えて関係局からなる推進チームを組成**し、**リーディングプロジェクトとして組織横断的に**取り組んでいく。

乳幼児期の子育ち

全ての乳幼児の学びや
経験をもっと豊かに

**子育ての
つながり創出**

「つながり」つむぐ
みんなの笑顔

学齢期の子育ち

自分らしく
ありのままで

＜子供に対する取組＞

子育て　居場所　遊　び

組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト

既存の枠組みでは対応が困難な課題に対して組織横断的に取り組む
子供を「主体」として捉えたリーディングプロジェクト

学び・成長　安全安心

**子供の笑顔につながる
「遊び」の推進**

子供の「遊びたい」を
全力で応援

ユースヘルスケア

からだや体調のこと、
もう一人で悩まない

**子供を事故から守る
環境づくり**

子供が事故から守られ
思い切りチャレンジできる

**日本語を母語と
しない子供を支援**

みんなでともに学び、
多くの人とつながる

**ヤングケアラーを
支える**

誰もが自分らしく暮らせる

リーディングプロジェクト

乳幼児期の子育ち

全ての乳幼児の学びや経験をもっと豊かに

保護者への「子育て」支援とともに、
子供の「伸びる・育つ」を応援する「子育ち」支援の視点を新たに加え、
いろいろな人と触れ合いながら多くの体験・経験ができる
環境をつくっていく。

乳幼児期の子育ち

推進チーム 子供政策連携室・生活文化スポーツ局・福祉局・教育庁

子供の目線に立った幼保共通のサポートに向けた取組を展開

幼稚園・保育所等のどちらに通っていても、乳幼児期から同年齢・異年齢の子供や、保護者以外の大人との関わりの中で、様々な体験・経験ができる環境を整え、全ての子供の生涯発達における土台形成を支援する

保護者への**「子育て」支援**とともに、**子供の成長・発達を応援する「子育ち」支援の視点**を加え、子供の**生涯にわたる心身の健康やウェルビーイング等に資する取組**を展開

とうきょう すくわくプログラム推進事業
（乳幼児「子育ち」応援プログラム推進事業）

幼稚園・保育所等における幼児教育・保育の更なる充実

「すくわくプログラム」とは

「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探究心（わくわく）」を応援する**幼保共通のプログラム**

多様な他者との関わりの機会の創出事業

保護者の就労等の有無にかかわらず、乳幼児期から多様な他者と関わり合うことができる場の創出

乳幼児期の非認知能力の育成等、**全ての乳幼児の「伸びる・育つ」をサポート**

政策強化の方向

1. **2023年度の実践を踏まえた「とうきょう すくわくプログラム」の全域展開**
2. **「乳幼児期の子育ち」の戦略的広報**
3. **「多様な他者との関わりの機会の創出事業」の実効性の高い事業展開**

「とうきょう すくわくプログラム」 ～主体的・協働的な探究活動を通じ、子供の豊かな心の育ちをサポート～

- ✓ 各園の環境や強みを活かしながら、「光」「音」「植物」など各園が選択するテーマに沿って、**乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践**
- ✓ 2023年度のベータ版プログラムの実践を踏まえ、**探究活動の実践のための工夫**や**子供の好奇心・探究心を高めるヒント**を具体的な活動事例とともに完成版プログラムに取りまとめ、**2024年度より全域展開**

プログラムのコンセプト

子供は**日々の遊びの中で**、興味・関心の幅を広げながら、**子供を取り巻く世界を「探究」**し成長しています。
「とうきょう すくわくプログラム」では、子供が何に興味・関心をもっているのか、子供が遊びの中でどのような発見をしているのか、保育者が子供の姿を丁寧に受け止め、**ねらいや意図をもって「探究」を促す**ことで、非認知能力の育成等、**乳幼児の成長・発達をサポート**していきます。

子供は、日々の遊びの中で、**無意識**に**「探究」を積み重ね**ながら**成長**

プログラムの活用によって、単なる「遊び」にとどまらず、**ねらいや意図をもって**「探究」を実践し、**「探究」プロセス全体の質を向上**

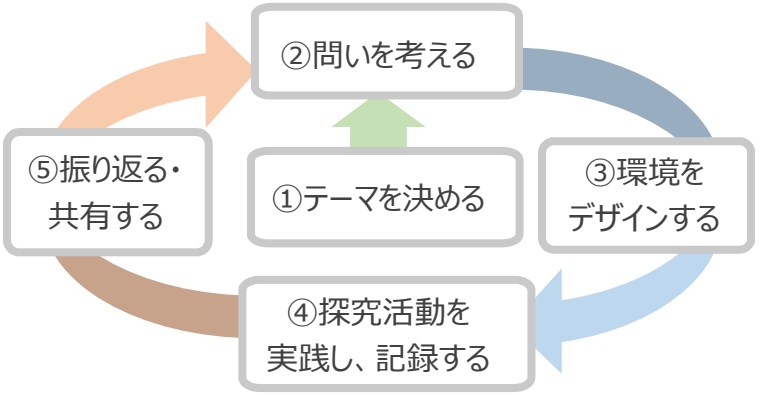
- 好奇心を抱くきっかけを**増やす**
- 思考のループを**広げる**
- 思考のループを**深める**

生涯発達の土台形成

多様な他者との関わりの中で、主体的に「探究」のプロセスを積み重ねることで、意欲・自己肯定感・社会性等の**非認知能力**を培う

「探究活動」の流れ

- ✓ 各園の環境や強みに応じたテーマを設定し、テーマに応じた素材や道具を準備することで子供たちが遊び込める環境を整えます。
- ✓ 子供たちは、子供同士や保育者との関わりの中で、**自ら興味をもって試し、考えながら「探究」を重ねていきます。**
- ✓ 保育者は子供の問いに対し、単に答えを与えるのではなく、声掛け等の関わりによって**一緒に「探究」を深めていきます**。また、活動を振り返り、子供の好奇心・探究心を更に促せるよう、探究活動のデザイン・実践を繰り返します。



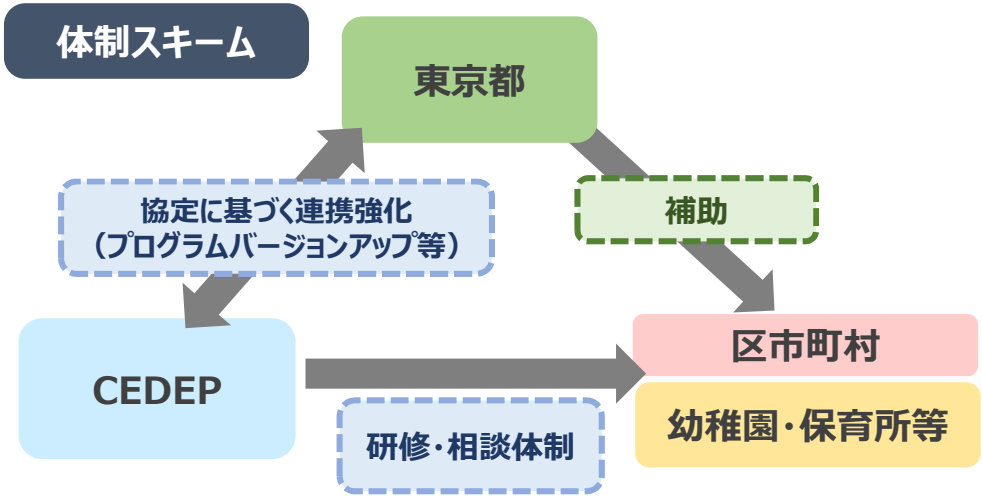
今後のアクション

1 2023年度の実践を踏まえた「とうきょう すくわくプログラム」の全域展開

とうきょう すくわくプログラムの実践に係る経費を補助 新
（子供政策連携室）

- プログラムの全域展開に向け、意欲ある全ての園でプログラム実践を行えるよう、実践に係る経費を補助し、**園の取組を財政的に後押し**

  ※補助経費例： 物品購入費、人件費など



とうきょう すくわくプログラムの更なる普及に向けたCEDEPとの連携強化（子供政策連携室） 拡

- 保育者等への**専門的かつ継続的な研修・相談体制を構築**し、施設の種類や規模にかかわらず、都内の幅広い**幼稚園・保育所等が円滑にプログラム実践に取り組める環境を整備**
- 実践事例の分析・検証をさらに積み重ね、地域や園の実情に寄り添いながら**プログラムを継続的にバージョンアップ**

“CEDEP”（東京大学大学院 教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター）と協定締結（2022年12月）

幼児教育・保育の振興に関する調査研究を推進するための、**国内唯一**の卓越した**国際政策研究拠点**

（出典）「東京大学発達保育実践政策学センターHP」

2 「乳幼児期の子育ち」の戦略的広報

とうきょう すくわくプログラムの全域展開に向けた幼児教育・保育の充実のための気運醸成（子供政策連携室） 新

とうきょう すくわくプログラムの理解促進

- 乳幼児期における非認知能力育成の意義や、プログラムの具体的な活動内容等を分かりやすく示す**動画を制作・発信**し、**区市町村・幼稚園・保育所等の参画を促進**
- **シンポジウムの実施**等により、保護者・区市町村・幼稚園・保育所等に対し**乳幼児期の子育ちの重要性を普及啓発**
- プログラムのシンボルとなる**ロゴを作成・発信**することで、プログラムの**認知度を向上**

区市町村・園との連携強化

- プログラムの実践を通じて幼児教育・保育の充実に積極的に取り組む区市町村を後押しするため、プログラムの普及啓発に向けた**区市町村とのタイアップ動画を制作・発信**
- 各園独自のプログラム実践を積極的にPRするため、**プログラム実践園の取組に関するPRツール（パンフレット等）を制作・発信**

取組を発信・共有するプラットフォームの構築

- 施設類型の垣根を越え、プログラム実践園での**多様な取組を共有**するためのプラットフォームとして**HPを新たに創設**

⇒**具体的な活動内容や実践ノウハウを集約・発信**することにより、各園での**プログラム実践を後押し**するとともに、**幼児教育・保育の充実に向けた気運を醸成**

3 「多様な他者との関わりの機会の創出事業」の実効性の高い事業展開

子育て家庭の多様なニーズに寄り添いながら、就労等の有無にかかわらず定期的に預かる取組を拡充（福祉局）拡

保護者の**就労等の有無にかかわらず**、乳幼児期から**他者と関わる機会を確保**し、**非認知能力の向上**など、全ての乳幼児が健やかに成長できるよう、**「子育ち」を後押し**。あわせて、在宅子育て家庭の孤立を防ぎ、**「子育て」支援を充実**

- 認可保育所、認証保育所、幼稚園など**多様な施設において、地域のニーズに応じて多くの乳幼児を受け入れられる**よう、**運営費を充実**
- **第二子以降の利用負担額を無償化**し、多子世帯の子供の利用を促進
- **障害児等の受入れ加算を新設**するとともに、**医療的ケア児の受入れを支援**
- 地域の実情に応じて柔軟に対応できるよう、引き続き、**預かりの上限時間を設けずに取組を推進**

国においても、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず、幼稚園・保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度（仮称）」の創設に向け、「制度の本格実施を見据えた試行的事業」を実施。
「制度の本格実施を見据えた試行的事業」では、補助基準上１人当たり「月10時間」を上限としている。

３か年のアクション（主要）

具体な取組	2023年度末（見込み）	年次計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
「とうきょう すくわくプログラム」の全域展開	・連携自治体でのベータ版実践 ・完成版プログラムの策定	完成版プログラムを都内全域に展開 研修・相談体制の強化、プログラムのアップデート ・CEDEPとの協定更新（予定）		
多様な他者との関わりの機会の創出事業	定期預かりの実施	定期預かりを順次拡大		

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

とうきょう すくわくプログラム（ベータ版実践）

2023年度の取組成果

都内４つの連携自治体の実践協力園14園において、各園の環境や強みを活かしながら、乳幼児の成長・発達段階や興味・関心に応じた探究活動を実践しました。

2023年5月　ベータ版プログラム実践に係る連携自治体を公募
6月　連携自治体を決定
7月　都内全ての園及び自治体職員向けにシンポジウムを開催
（乳幼児期の「子育ち」シンポジウム～探究のめばえ～ ）
9月～　連携自治体における実践協力園にてベータ版プログラムを実践
2024年3月　実践報告会の開催・完成版プログラムの策定

実践協力園　内訳

連携自治体	幼稚園	保育園	合計
港区	2	2	4
渋谷区	1	1	2
江東区	1	2	3
福生市	1	4	5
合計	5	9	14

多様な実践テーマ例

光

✓ 水や紙など様々な素材を光に照らし、反射する光や浮かび上がる影の形を楽しむ　など

影

自然　**森歩き**　**泥・砂遊び**

✓ 山や森、園庭の自然などに触れ合いながら、葉や木の実の色の違い、形の違い、土や泥の感触、形状の面白さなど、様々な身の周りの自然を体感
✓ 子供たちが感じた自然を、絵や言葉など様々な形で表現　など

植物（オリーブ・柿の木）

色

✓ 子供同士で様々な色を重ね合わせ、色の変化を楽しむ、様々な色作りに挑戦　など

音

✓ 身近な音を題材に「この音は何だろう」「音ってなんだろう」という問いをもとに、楽器などを使い、子供同士で音を楽しみながら、振動を感じる、音を身体や絵で表現　など

楽器

✓ 絵本の世界に入り込んで、子供の想像する絵本の世界を絵で自由に表現　など

絵本

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

ベータ版プログラム実践協力園での具体的な取組

光

福生市

なんだろう？

０歳児が普段の保育の中で、部屋に差し込む光や、水に光が当たって輝く様子などに興味を示していたことから、「光」をテーマにしました。

水で満たされたアクリルケースと照明を使って、光が反射して揺らめく様子、沈めたボトルの中から出る泡、水しぶきやしずくなどを、保育者と共に観察しました。

また、照明と様々な種類の紙を用意し、影を観察したり、紙を丸めたり、くしゃくしゃにしたり、手触りや音の違いを発見しました。

0歳児の子供たちは真剣な表情で自ら試し、様々なことを発見していました。

音

渋谷区

どうなるかな？

生活に欠かせない「音」をテーマに、「音ってなんだろう？」という保育者の問いかけから、４歳児が様々な種類の楽器に触れながら「音」を探究しました。

音が出る仕組みについて考えたり、お互いの音を聴き合いながら音の大小や音色の違いを楽しみました。

さらに、保育者の「どんな音が好き？」「心地よい音ってどんな音？」などの問いかけにより、子供一人ひとりが音をどのように感じているかをみんなで共有し、音について考えを深めました。

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

ベータ版プログラム実践協力園での具体的な取組

絵本

すごい！たのしい！

江東区

絵本の読み聞かせを重視している園では、５歳児がお気に入りの絵本をテーマに活動を行いました。

長い紙と絵の具を準備し、子供たちが絵本の内容からイメージした世界を自由かつ大胆に表現しました。子供同士の対話の中で、ストーリーにはない想像の世界が膨らんでいきました。

↑プロジェクターで絵を投影し遊ぶ様子

また、子供たちが描き上げた絵をプロジェクターで部屋に投影することで、一人ひとりが物語の主人公となり、全身で物語の世界に入り込みながら、絵本を通じて経験した感情を夢中になって表現しました。

自然

もっとやりたい！

港区

園庭遊びが大好きな４歳児の子供たちが自然をテーマに活動を行いました。

「自然って何だろう？」という保育者の問いかけから、子供たちは葉っぱ、花、ぶどうの実、種など、たくさんの自然を園庭で見つけ、感触、におい、色など五感を使って感じ取りました。そして、子供たちが見つけたそれぞれの自然をみんなで共有し、自然からイメージした絵を様々な色を作って描きました。

また、プロジェクターを使って、一つひとつ異なる色や形を持つ葉っぱ、実などがどのように映るか試したり、映し出された植物を「基地」や「幼稚園」などに見立てて物語を作るなど、自分たちで自由に遊びを生み出しました。

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

ベータ版プログラム実践に携わった園の先生の感想

- 子供の**普段見られない一面を知る**ことができてよかった。
- 子供に対する**目線や捉え方を見直すきっかけ**になった。
- 子供たちの**「なぜ？」「なに？」に目を向けることの大切さ**を再確認した。
- 子供の**楽しそうな姿がエネルギーになり**、次はこんなことをしたら楽しいんじゃないかという発想が生まれてくる。
- こうやって自分たちで考えて探究していくことが、**子供が本来持っている力を発揮できる機会**になるのではないかと思った。
- 継続的にこういう活動ができるようにしたい。

実践後の振り返りの様子

保護者の感想

- 子供の**自由な発想**に驚かされた。
- 子供たちの**気持ちと言葉の豊かさ**に感動した。
- 活動の時の思い出をたくさん話してくれて、**楽しんで取り組んだ様子が分かって嬉しかった。**
- **園だからこそできる**、家ではできないような活動をできるのがよい。

2024年度の方向性

2023年度のベータ版プログラム実践における意見を踏まえ、完成版プログラムを策定し、2024年度より「とうきょう すくわくプログラム」を全域展開していきます。

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

多様な他者との関わりの機会の創出事業

2023年度の取組成果

都内15自治体において、認可保育所、認証保育所、幼稚園等の**様々な施設を活用**しながら、保護者の就労等の有無にかかわらず、普段幼稚園や保育所に通っていない**未就園児を対象に、定期的に預かる取組を開始**しました。

保護者の感想

- 集団生活を経験させたかった。園に通うことで、子供が新しいことに取り組む機会が増えた。
- 一時的なスポット利用ではなく、定期的に同じ園に通うので、少しずつ慣れることができた。
- 人見知りだったが、親と離れても園で楽しく過ごせるようになった。
- 少しずつ周りの友達を思いやる姿が見られるようになった。
- 子供が園に通っている間は、家事をまとめて行ったり、ゆったり過ごしたり、今までできなかったことをしたり、自分の時間が取れて育児の負担が軽減された。
- 周りに育児の悩みを相談できる人がいなかったが、通園をきっかけに、園で相談できるようになった。

2024年度の方向性

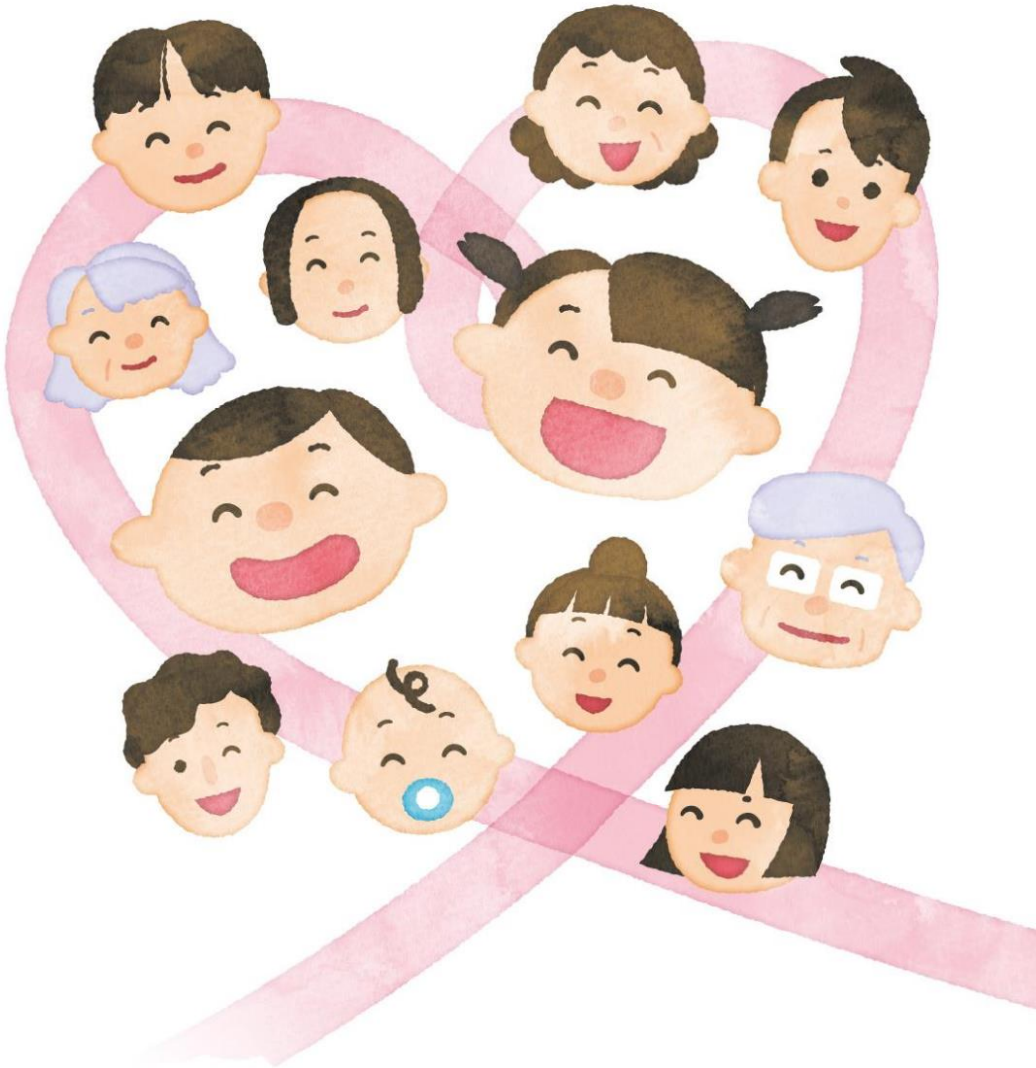
子育て家庭の多様なニーズに寄り添いながら、
実施園を拡大し、定期預かりを希望する全ての家庭が利用できるよう、取組を進めていきます。

- 運営費の充実
- 第二子以降の無償化
- 障害児等の受入支援
- 医療的ケア児の受入支援

リーディングプロジェクト

子育てのつながり創出

「つながり」
つむぐ
みんなの笑顔



人と人との「つながり」を大切に、
子供や保護者一人ひとりに合ったサポートで、
笑顔つながる東京へ。

子育てのつながり創出

推進チーム　子供政策連携室・デジタルサービス局・生活文化スポーツ局・福祉局・教育庁　等

日常的な不安や悩みに寄り添う、東京ならではの支援

- 子供や子育て家庭の感じる孤独や不安が増している中で、子育て家庭に寄り添ったきめ細かな施策により、“子育てのつながり”を創出する。

子育て家庭に寄り添ったきめ細かな施策を結集し、
リアル＆バーチャル双方の視点から、“子育てのつながり”を創出

孤独・孤立による不安や悩みを予防・解消

人とのリアルな“つながり”

ファミリー・アテンダント

地域団体の人材等と連携し、
アウトリーチ型支援を展開

デジタルによる“つながり”

子供・子育てメンター“ギュッとチャット”

SNS等を活用し、
日常的な不安や悩みの相談環境を構築

相談、アウトリーチ、経済的支援等による切れ目のない子育て応援

・とうきょうママパパ応援事業　・東京都出産・子育て応援事業　・018サポート　など

今後の政策強化の方向

1. 子育て家庭へのきめ細かな見守りを実現
2. 地域における子育て支援力を強化
3. SNS等を活用したチャット相談により孤独・孤立を予防

今後のアクション

人とのリアルな“つながり”

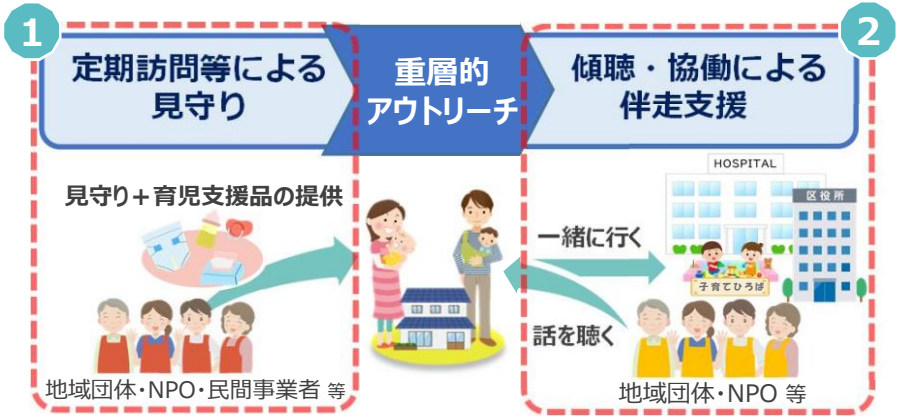
1 子育て家庭へのきめ細かな見守りを実現　**2 地域における子育て支援力を強化**

子育て家庭を見守り・寄り添う、アウトリーチ型支援を充実（ファミリー・アテンダント／子供政策連携室）拡

子育てに関する日常的な不安や悩みに寄り添う**地域の支援体制**を構築

- 支援体制の構築に取り組む**区市町村を対象とした補助**を創設
- **特に不安が生じやすい０歳児家庭**に対して、**全戸への定期訪問等による見守り**を重点的に実施
- **地域団体、NPO、民間事業者等**の**多様な担い手**により、きめ細かな定期訪問や傾聴・協働のための支援体制を実現
- 区市町村独自の育児支援事業との効果的な連携により、様々な地域の実情を踏まえた重層的な支援を展開

2023年度から先行実施	大田区、豊島区、江戸川区、日野市



子育ての孤独・孤立による不安や悩みを予防・解消

相談、アウトリーチ、経済的支援等による切れ目のない子育て応援

妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を展開（とうきょうママパパ応援事業、東京都出産・子育て応援事業、018サポート／福祉局）

- **【とうきょうママパパ応援事業】** 妊娠の届出をした全ての妊婦に**保健師等による面接**を行い、心身の状態や家庭状況、子育て支援ニーズ等を把握し、必要に応じて支援プランを作成の上、きめ細かい支援を実施。また、面接を行った妊婦には**育児パッケージを配布**
- **【東京都出産・子育て応援事業】** 子供を産み育てる家庭を応援・後押しするために、妊娠届出や出生届出を行った妊産婦等に対し、**育児用品や子育て支援サービス等を提供**するとともに、とうきょうママパパ応援事業と連動し、**伴走型相談支援と経済的支援とを一体的に実施**
- **【018サポート】** 子供一人ひとりの成長を等しく支えるため、**０歳から18歳までの全ての子供に月額5,000円を支給**

デジタルによる“つながり”

3 SNS等を活用したチャット相談により孤独・孤立を予防

子供や子育て家庭が気軽に相談できるプラットフォームづくりを推進（子供・子育てメンター“ギュッとチャット”／子供政策連携室）

- SNS等を通じて、**利用者が選択可能**な**多様な相談相手**＊が、**継続的**に子供・子育て家庭に**傾聴・共感**し、孤独・孤立による**不安や悩みの深刻化を予防**

  ＊多様な相談相手のイメージ：心理士、保健師等の専門職
  大学生、相談対応経験の豊富な人　等

- **AI等の技術**を併用し、**利用者の異変検知等のリスク管理**を実施するなど、安心して利用でき、**心の拠り所となる居場所づくり**を推進

東京都の多様な分野における相談事業との連携イメージ

東京都の各局の相談機能との連携により、子供や子育て家庭に寄り添う相談ネットワークを構築

妊娠期 → 出産 → 乳幼児期 → 学齢期以降

東京都の幅広いSNS等相談支援

親子のための相談LINE　はあと　SNS等教育相談　こたエール　・・・

連携

子供・子育てメンター“ギュッとチャット”

多様な相談相手

AI ・AIパトロールによるリスク管理
・AIとチャット　・相談内容解析

子育て家庭に寄り添い、学齢期以降の子供を切れ目なくサポート

プッシュ配信により必要な支援情報を提供

SNS等で日常的な不安や悩みをチャット相談

不安感　孤独感　もやもや感

～ 子育て家庭や子供たちの孤独・孤立による不安や悩みの深刻化を予防～

東京都におけるSNS等相談窓口の例

妊娠期 → 出産 → 乳幼児期 → 学齢期以降

親子関係・虐待予防相談「親子のための相談LINE」（福祉局）

無料通話アプリを活用した相談窓口 「親子のための相談LINE」を設置することにより、子供や保護者がよりアクセスしやすい環境を整備

友達関係・いじめ・進路相談「SNS等教育相談」（教育庁）

友達関係やいじめ、進路などの悩みを抱える都内在住又は在籍児童・生徒（高校生相当年齢まで）の子供本人を対象としたウェブチャットによる相談窓口

生活・養育費・就業相談 「はあと」（福祉局）

生活相談、養育費相談、就業相談・支援を行う東京都ひとり親家庭支援センター「はあと」において、SNS相談を実施

ネット・スマホのトラブル・悩み相談「こたエール」（生活文化スポーツ局）

ネット・スマホ利用におけるトラブルや悩みなどについて、青少年及びその保護者、学校関係者等から、電話・メール・LINEで相談を受け付ける窓口

３か年のアクション（主要）

具体な取組	2023年度末（見込み）	年次計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
ファミリー・アテンダント	先進事例創出（４自治体）	実施自治体を拡大（10自治体程度）	実施自治体を順次拡大	
子供・子育てメンター“ギュッとチャット”	実施に向けた環境整備を推進（システム構築など）	SNS等活用の相談事業をスタート AIによるサポートを順次拡大	多言語対応をスタート	

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

ファミリー・アテンダントのこれまでとこれから

2022 → 2023 → 2024～

HOP
準備
STEP0

- ✓ 国内外事例調査
- ✓ 自治体等との意見交換

STEP
準備・先行実施
STEP1

- ✓ 補助制度の検討・創設
- ✓ 先進事例創出事業による先行実施
  - 大田区
  - 豊島区
  - 江戸川区
  - 日野市
- ✓ 先行実施自治体における研修

※詳細は次ページ

JUMP!
実施自治体の拡大
STEP2

- ✓ 先進事例の発信など

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

【ファミリー・アテンダント】

先進事例創出事業に着手　意欲ある自治体と連携して、先進的な事例の創出に取り組んでいます

2023年度の取組事例

定期訪問等による見守り

【先進事例①】

- ◆ 担い手：**民生委員・児童委員**
- ◆ 取組の特徴：
  - ✓ 地域の民生委員・児童委員による自治体独自の子育て家庭訪問の取組を再構築
  - ✓ **既存の訪問事業**（妊娠期～乳幼児期）**と連携**し、**切れ目ない伴走型支援**を展開

【先進事例②】

- ◆ 担い手：**民間事業者**
  ※ **支援員として研修を受けた訪問員**
- ◆ 取組の特徴：
  - ✓ **毎月1回**、訪問員が見守り訪問
  - ✓ 原則、**親子対面**で育児支援品をお渡し
  - ✓ 支援品配達時に**ヒアリング等により状況を把握**
    必要に応じて関係機関につなぎ継続的に支援

傾聴・協働による伴走支援

【先進事例】

- ◆ 担い手：**NPO法人（子育てひろば運営団体）**
- ◆ 取組の特徴：
  - ✓ **就学前の希望世帯**を対象に傾聴・協働を実施
  - ✓ 地域の子育て支援に関する情報の提供及び相談支援を実施
  - ✓ 必要に応じて**地域の子育てひろばへの参加**を案内

2024年度以降、事例を発信し、都内の広域展開につなげていきます

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

【ファミリー・アテンダント】

担い手への研修

先行実施自治体と連携して、訪問支援員の研修を行いました

ファミリー・アテンダントの「**傾聴・協働による伴走支援**」については、希望する子育て家庭が安心して利用できるよう、**東京都と先行実施自治体とが連携して訪問支援員の研修**を行っています。

傾聴・協働 とは

傾聴

訪問支援員が、子育て家庭が抱える**育児の不安や悩み等について話をお聞きし**、寄り添うとともに、その解消に向けて**一緒に考えていきます**。

協働

訪問支援員と保護者の方とが、**家事・育児等に関する様々な活動**を **"一緒に"行います**。一緒に子供と遊ぶ、一緒に区役所や病院に行くなど多様なニーズにお応えします。

訪問支援員研修の様子

◆ 2023年11月、傾聴・協働の取組を担う団体のマネージャー向けに、東京都主催の研修を実施しました。

◆ 研修では、**傾聴・協働の基本的な流れ**から、**子育て家庭と訪問支援員のマッチング**、必要に応じた**関係行政機関との連携**等について講義やロールプレイングを行いました。

▲マネージャー研修の講義の様子

▲ロールプレイングの様子

※ 2023年12月下旬には、マネージャー以外の訪問支援員に対して実務研修を実施

【参加者からの感想・意見】

- マナーからマッチングと訪問の仕方、ボランティアの指導法まで、とても丁寧にわかりやすく教えていただき、**今まで不安だったことが「できるかも」に**変わりました。話し方、応対方法も練習して自然にできるようにしたいと思います。
- 改めて大変さを実感していますが、**これから子育て家庭に寄り添うことを楽しみ**にしています。
- どれも興味深い内容でした。スタッフの中には**つい自分の育児体験を話してしまう人、話したい人がいるので、そこが悩みどころ**です。

〈表現は原文を基に記載〉

研修後のアンケートなどを、今後の研修内容の充実に生かします！

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

子供・子育てメンターのこれまでとこれから

2022 → 2023 → 2024 → 2025

HOP

準備

STEP0

- ✓ 取組の方向性を検討
- ✓ システム機能の要件などを整理

STEP

先行稼働

STEP1

- ✓ 期間を区切ってスモールスタート
- ✓ 利用者へのアンケート調査
- ✓ 課題を整理

JUMP!

本稼働

STEP2

- ✓ 利用者拡大
- ✓ AIサポート順次拡大
- ✓ 多言語対応をスタート
- ✓ 継続的に改善

反映

✓ **子供、保護者の意見を聴く取組（アンケート、出前授業）**

※詳細は次ページ

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

【子供・子育てメンター】
子供・保護者アンケート

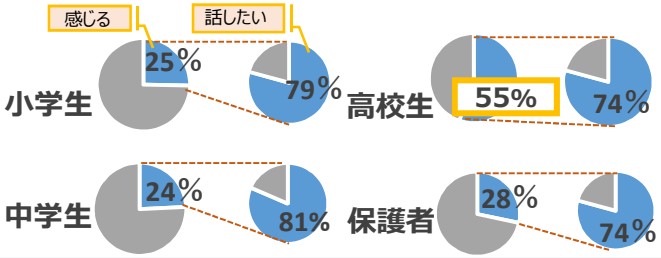
チャット相談の事業運営やシステム機能などを検討するため、利用対象者となる子供や保護者へのアンケートを行いました

●東京都内在住の子供（小、中、高）と保護者（未就学、小、中、高）の約3,200人にご協力いただきました。（2023年7月）

孤独・孤立を感じる状況

Q,孤独や孤立を感じるか、孤独感を感じるときに誰かと話がしたいか

⇒孤独や孤立を「**感じる**」と答えた人のうち、「**誰かと話がしたい**」人の割合

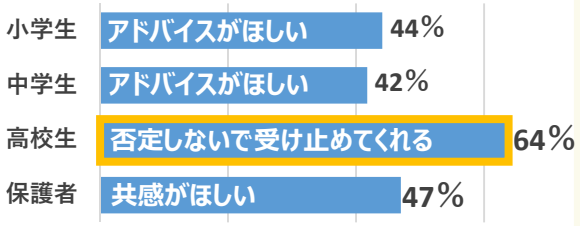


☞高校生の半数以上が、孤独や孤立を感じ、他者とのつながりを求める傾向がある

相談に期待すること

Q,誰かに相談するとき、期待することは

⇒「**話を聞いてくれるだけでいい**」「**助言やアドバイスが欲しい**」等の９項目のうち、最多割合を得た回答

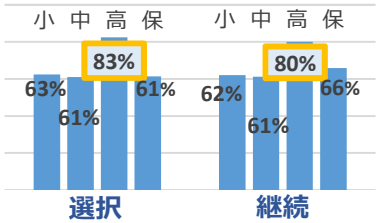


☞共感、助言、受容へのニーズが高い

相談相手を選んだり、継続的に相談できること

Q,選択や継続ができることをどう思うか

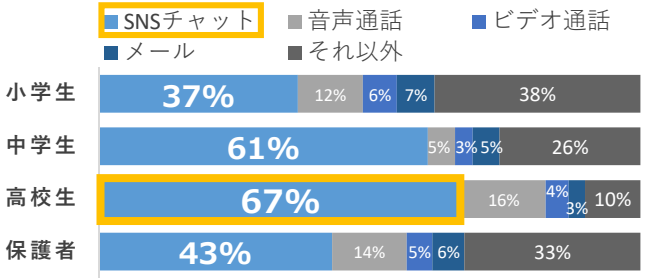
⇒「**良い**」「**まあまあ良い**」と答えた人の割合



☞相談相手の選択、継続に対し好意的な意見が多数

相談の手段

Q,悩みを話すツールとして便利なのは何か



☞身近な、SNSチャットのニーズが高い

『どんな相談窓口が使いやすいと思うか』（自由意見）

- **広報等でもっと周知、認知**されていれば使いやすくなる
- 信頼できる
- **匿名、チャット**
- **利用料無料**
- 明るく親しみやすい雰囲気
- **専門家**がいる
- みんなが使っていること
- すぐにつながる
- **相談相手がどのような人か**わかるといい

気軽に相談でき、利用しやすい、チャット相談の環境整備に取り組みます！

●SNSからのアクセスを可能に　●相談相手の選択機能・予約機能の導入　など

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

【子供・子育てメンター】学校への出前授業

不安や悩みがある時に相談することの大切さを子供と一緒に考え、デモ画面で「チャット相談」を体験していただきました

●小・中学校合わせて、3校12学級の子供たちにご参加いただきました。

東村山市立青葉小学校 6学年

東村山市立萩山小学校 5学年

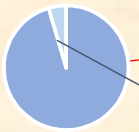
東村山市立東村山第二中学校 2学年

授業後アンケート

デモを体験してみて、チャット相談を使ってみたいと思いますか？

意見や感想を教えてください

使ってみたい



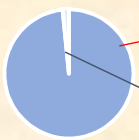
63人 (95%)

使ってみたくない

- **漢字にふりがな**がついたらいいと思った。
- **悩み以外のことも聞いてくれる**のが嬉しい。
- **子供向け、大人向けに分けた**ほうがいいと思う。
- **AIなら**人の時間を取らないから**気軽に相談**できる。

〈表現は原文のとおり記載〉

使ってみたい



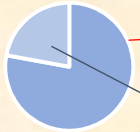
62人 (98%)

使ってみたくない

- 悩んでるとき**気軽に一人で相談**できてとても話しやすい。
- **家族や友達に相談したくないことがあるとき**使いたい。
- **名前や顔とか知られない**のがいい。
- 人に言えないもやもやがいっぱいあるけど、**AIだと気軽に相談しやすい。**

〈表現は原文のとおり記載〉

使ってみたい



176人 (78%)

使ってみたくない

- **SNSで相談に乗ってくれる方が話しやすい**し、現実で話すよりも安心できる。
- **相談相手の人の顔などのちょっとした情報**があると、より相談しやすいと思う。
- 人に相談する以外にも**AIにも相談するという選択肢があるのは良い。**

〈表現は原文のとおり記載〉

皆さんが気軽に利用できるよう、頂いたご意見をチャット相談のシステム構築に反映させていきます！

●本名の登録不要　●子供向けと大人向けのデザインを設計　●相談相手情報の掲載　●将来的なAI活用の検討　など

＜コラム＞　妊娠期から乳幼児期までの切れ目のない支援を総合的に推進

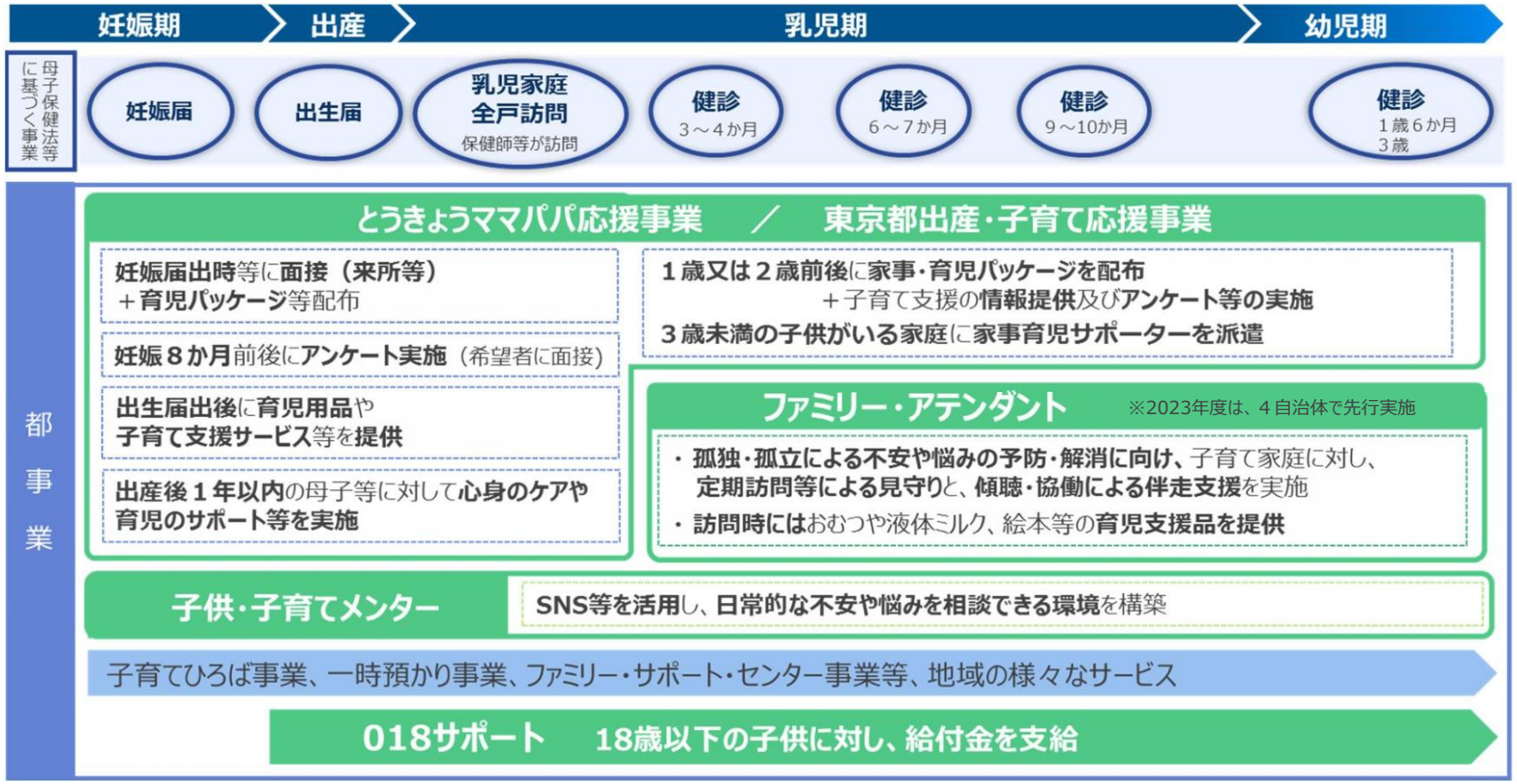
各区市町村においては、**母子保健法や児童福祉法等に基づき、妊娠期から産後にかけて様々な子育て支援**に取り組んでいます。

東京都では、このような取組を後押しし、実効性を高めていくため、**とうきょうママパパ応援事業**や**東京都出産・子育て応援事業**等により、**伴走型相談支援や経済的支援を行ってきました。**

今年度は、子供の育ちを切れ目なくサポートするため、**０歳から18歳までの子供に月額5,000円を支給する「018サポート」を開始**しました。

一方で、近年、「子育て」が「孤育て」とも言われる中、今後は子育ての孤独や孤立を防ぐため、**子育て家庭への定期訪問等による見守り**や、日常的な不安・悩みを**SNS等から相談できる環境の構築**にも取り組み、子供が健やかに育つまでの切れ目のない支援を総合的に推進していきます。

妊娠期～乳幼児期における子育て支援の例



リーディングプロジェクト

子供の笑顔につながる「遊び」の推進

子供の「遊びたい」を全力で応援

子供にとって「遊ぶ」ことは、
生きるチカラを育むこと。
多様な人と関わり合いながら、自由な発想で、
やってみたいことに挑戦できるよう
子供の笑顔につながる「遊び」の環境づくりに取り組む。

子供の笑顔につながる「遊び」の推進

推進チーム　子供政策連携室・都市整備局・建設局・港湾局・教育庁

子供が伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに向け、多面的に取組を推進

○ 子供は「遊び」を通じて、異年齢の子供や家族以外の大人等と関わりながら、様々なことに自ら挑戦し、時には失敗も乗り越えながら、多様な経験を積み重ねることによって、実社会で生きる力を育む

○ 社会の宝である子供が、健やかに成長していけるように、区市町村と連携しながら、「遊び」の環境を整備

政策強化の方向

1. 子供の意見を反映した遊び場づくりの推進
2. 「遊び」を通じた多様な体験機会の充実
3. 子供の「遊び」を支える人材の育成
4. 子供の「遊び」に対する地域社会への理解促進

子供の意見を反映した遊び場づくり

多種多様で魅力的な遊び場を増やす！

区市町村や地域のNPO等と連携

子供が主体的かつ安全に遊ぶ環境づくり

身近な場所で多様な体験ができる環境をつくる！

子供の「遊び」に対する地域社会の理解促進

子供が遊ぶことの大切さを知ってもらう！

今後のアクション

1 子供の意見を反映した遊び場づくりの推進

子供の意見を反映した遊び場づくりに取り組む区市町村を支援 拡
（子供の遊び場等整備事業／子供政策連携室）

- **子供の意見を踏まえながら、プレーパークやボール遊び場**など地域資源を活用した**遊び場等の創出に取り組む区市町村**を**強力に支援**

（採択事業数を拡大）

誰もが遊べる児童遊具広場の整備（建設局）

- 都立公園に**ユニバーサルデザインに対応した遊具を順次導入**
- 周辺の小学校・保育園等の子供にアンケート調査を実施し、**子供の意見を設計内容に活かしながら整備**

↑府中の森公園の複合遊具

子供の視点を取り入れたまちづくりの推進（都市整備局）

- 品川駅西口地区や臨海副都心地区などの都市開発の中で、**子供の視点を取り入れたまちづくりを推進**し、**子供の意見を反映した子供の遊び場の整備**等を検討

↑イメージ

<コラム>プレーパーク（冒険遊び場）とは？

冒険遊び場は、子どもが「遊び」をつくる遊び場です。
そこでは火を使ったり、地面に穴を掘ったり、木に登ったり、
何かものをつくったり・・・。
落ち葉やどろんこや自然の素材を使って、
遊び場にあるスコップや金づちや大鍋を使って、
自分の「やってみたいと思うこと」を実現していく遊び場です。
さまざまな遊びが展開されていくので、
変化しつづける遊び場ともいえます。
禁止するのではなく、いっしょに考えてやってみる。
のびのびと思いきり遊べるこの場所は、
子どもが生きる力を育むことを支えています。

<出典>特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会

2 「遊び」を通じた多様な体験機会の充実

3 子供の「遊び」を支える人材の育成

子供の「遊び」体験イベント・プレーリーダー研修の実施
（子供の「遊び」推進プロジェクト／子供政策連携室）

- 子供の**身近な場所**で**多様な遊びを経験**できる**「遊び」体験イベント**を、子供の「遊び」推進プロジェクトとして実施し、自由工作、穴掘り、たき火体験、水遊び、むかし遊びなど**多種多様な遊び体験の機会**を創出

- プロジェクト実施者を対象とした**プレーリーダー研修**を実施。**子供への関わり方**、**危険管理、インクルーシブな視点**など、必要なスキルを習得することを目的に、座学研修や各プロジェクト実施場所での実地研修（事前・当日）を開催し、**子供の「遊び」を支える人材を育成**

子供が主体的に遊ぶ体験機会を創出する区市町村を支援（子供政策連携室） 新

- プレーパークでの遊びなど、子供が主体的かつ安全に遊ぶ機会を創出するため、プレーリーダー研修を実施するなど、**質の高い遊びの環境づくりに取り組む区市町村を支援**

＜参考＞冒険遊び場（プレーパーク）事業を子供家庭支援区市町村包括補助事業（福祉局）の対象として例示し、区市町村の取組を支援

2 「遊び」を通じた多様な体験機会の充実

東京高速道路（KK線）の再生に向けたイベントの開催（都市整備局）

- KK線の再生に向けて、世界から注目される観光拠点を目指し、**子供も楽しめるイベントを実施**するなど、積極的な広報を展開
- **子供アンケート調査を実施**し、今後のイベントやKK線再生の取組に活用

↑イベントの様子

↑KK線をウォーキング

パーク・ストリート東京（都市整備局）

- 道路空間等を活用し、人が歩いて楽しむまちを創出する取組において、**子供向けのイベントについて効果的に情報発信**

↑パルテノン大通り（多摩市）でのイベントの様子

2 「遊び」を通じた多様な体験機会の充実

都立特別支援学校に移動式冒険遊び場を設置（教育庁）

- 土日の**都立特別支援学校の校庭等を活用**し、冒険遊び場を提供
- 都立特別支援学校に在籍する児童・生徒及び地域の子供が参加し、**障害の有無にかかわらず**、ともに遊べる**インクルーシブな遊び場**を創出
- **プレーリーダーを配置**し、**子供たちの自由な発想を促すプレーキット（遊び道具）を用意**するなど、**子供が安心して伸び伸びと遊べる環境づくり**に取り組む
- 2023年度は**計10回実施**し、**約1,900人の子供や保護者が参加**

↑プレーカーにお絵描き

↑段ボール遊び

↑全体風景

海の森子供レンジャーの活動（港湾局）

- 2025年３月の開園に向け、**子供レンジャーの養成研修**を実施
- **子供の意見を踏まえ**、公園の美化や植物の保護活動、海の森における植物や昆虫の調査・保全等の活動を実施

↑森の育樹活動

都民広場での遊び空間の創出（都市整備局）

- 西新宿地区では、「人が憩い、楽しく歩けるまち」をテーマに、地元まちづくり団体とともに**歩行者中心のまちづくり体験イベント**「ファンモアタイム新宿」を開催
- 都民広場において、**子供向けの体験イベント等を実施**し、**遊び空間を創出**

↑イベントの様子

東京2020選手村跡地プロローグイベント「HARUMI Coming!」を開催 ＜都市整備局＞

- 2023年10月、東京2020大会の選手村跡地で整備が進む新たなまちにて、**大会レガシーを活かした先進的・先駆的なまちづくりの取組を発信するプロローグイベント**を開催しました
- サイエンスワークショップやスポーツ、舟旅の体験など、**様々な遊び体験イベントを実施**し、開放感のある公園や道路を活用して**子供たちが存分に遊べる機会を創出**しました

↑ステージイベントの様子

↑サイエンスワークショップ

↑思い切り遊ぶ子供

4 子供の「遊び」に対する地域社会への理解促進

「遊び」の重要性を広く発信（子供の「遊び」推進プロジェクト／子供政策連携室）

- 子供の「遊び」体験イベントにおいて、地域の大人が、「やりたい！」「できた！」と**目を輝かせている子供たち**を見守りながら、一緒に体験することで、「遊び」の重要性や魅力を認識
- イベントに参加した子供・大人の声や、主催者・プレーリーダーの思いを**見える化**し、**映像やインフルエンサーの活用**を通じて、**子供にとっての遊びの重要性**を伝える

↑つるの剛士さんと内田伸子先生の対談

子供の「遊び」推進プロジェクト

特設サイトで動画配信中！

<コラム>プレーリーダーとは？

<出典>特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会

プレーリーダーは、冒険遊び場には欠かせない存在です。プレーリーダーの役割をひとことで表すと「子どもがいきいきと遊ぶことのできる環境をつくること」といえます。
子どもの興味や関心を引き出すよう、いつも遊び場を整備しています。つねに変化する遊び場の状況に応じて注意を払い、子どもに声をかけます。
子どもといっしょに思いきり遊び、子どもが厚い信頼をよせる相手です。ときには、子どものよき相談相手になることもあります。ケガや思わぬトラブルにも対応します。
大人は子どもの遊びを規制しがちになりますが、そんなときには子どもにかわって子どもの気持ちを伝えます。

３か年のアクション（主要）

具体な取組	2023年度末（見込み）	年次計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
子供の遊び場等整備事業	区市町村への補助事業 →			
子供の「遊び」推進プロジェクト	８プロジェクト実施 →	８プロジェクト実施 →		
子供が主体的に遊ぶ機会の創出	要綱検討	区市町村への補助事業 →	区市町村への補助事業（新規のみ対象） →	区市町村への補助事業（新規のみ対象） →
都立特別支援学校に移動式冒険遊び場を設置	２校で実施 →	２校で実施 →	実施校の拡大検討 →	

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

子供たちに「身近な場所にあったらいいなと思う遊び場」を聴きました

学校での出前授業や**都内の遊び場でのヒアリング**を実施し、**約300人**（出前授業約100人、遊び場ヒアリング約200人）**の子供に意見を聴きました**

- ボール遊びができる場所がもっと増えてほしい
- アスレチックなどスリルがある遊び場
- 休める場所
- 中学生が集まれる場所
- プレーパークのような公園がもっと家の近くにできるといいと思う
- 夏の暑い日や天気に左右されない室内の遊び場
- 年代など関係なくみんなが楽しめるところ
- 自転車や一輪車、スケボーで遊べる公園

遊び場づくり

↓プレーパーク・フリースペース

←スケートボードパーク

↓ボール遊び場

室内施設→（学習・交流・たまり場）

←インクルーシブ遊具

遊び体験の機会づくり

挑戦できる遊び

↑モンキーブリッジ

←竹ジャングルジム

↑子供も大人も楽しむ

室内で自由工作

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

出前授業～こどもの笑顔につながる遊び場づくり～

立川市立第二小学校及び立川市立大山小学校で、５年生の109人の子供に、「身近にあったらいいなと思う遊び場」をグループ提案してもらいました。

「遊ぶ」ということは どんな良いことがありますか？

- 楽しい、友達と仲良くなる、体がけんこうになる、ストレスはっさんになる
- 自分のしたいことができる
- コミュニケーション力が上がる、はなしあう力がつく
- また「がんばろう！」と思える　など

遊んでいるときに 困ったなと感じたことはありますか？

- 友達とケンカしたとき
- あそぶばしょがあんまりない、あそぶじかんが少ない
- ルールがあってのびのび遊べない
- ボールがつかえないこうえんが多い
- へんな人とかにあったらこわい　など

グループ発表：「身近にあったらいいなと思う遊び場」を提案しよう

- 「小さい子も大きい子もたのしめるしせつ」や「しょうがい者でもたのしく、みんなであそべる公園」など、だれでも楽しく遊べる場
- 夏のあつい日や天気に左右されない「だれでもむりょうの室内公園」
- 広くてボール遊びができるところ
- 「森の中にジェットコースター」や「でかいアスレチック」などスリルがある遊び場
- しょうらいに向けて練習できる「しょくば体験ができる場所」

など、ワクワクするような遊び場をたくさん提案してくれました！

↑発表している様子

＜表現は原文のとおり記載＞

都内の遊び場でのヒアリング

都内の遊び場21か所で、未就学児（保護者含む）から高校生までの193人の子供に、「こんな遊び場があればいいなぁ」と思うことなどを聴きました。

外で遊ぶことは好き？

- 外遊びが好き
  （理由）楽しい、ストレス発散、体を動かせる、ボール遊びができる、広いから鬼ごっこができる、自然がいっぱい、遊びからしか学べないことがある
- 外遊びも室内遊びも両方好き
  （理由）漫画やゲームも好き
- 外遊びは好きではない
  （理由）寒い（暑い）から、虫が苦手

遊び場でよかったことや困ったことは？

- 新しい友達ができる
- 学校外の友達と遊べる
- 年上、年下と感じずに友達になれる
- 色々な遊びができる
- 不審者が来ないから安心する
- 怪我をしにくくなった
- （困ったこと）やることが決まっている、遊具がなくなった、狭い、遠い　など

↑たき火を囲みながら子供に意見を聴く様子

遊び場にいるお兄さんやお姉さん（プレーリーダー等）は他の大人と違う？

- やさしい
- 気軽に話しかけやすい
- やりたいと思ったことをやらせてくれる
- 遊んでくれる、色々教えてくれる
- 対等に接してくれる。普通の大人のような上から目線ではなく、１人の人として接してくれるところが違う
- 違いはない、あまり話さない

どんな遊び場が増えて欲しい？

- ボール遊びができる場所
- 思いっ切り遊べる場所（怒られるときがある）
- アスレチックやターザンロープができる場所
- プレイパークがもっと家の近くにできるといい
- 休める場所や昼寝場所
- 広くて芝生のある平らな場所
- 自転車が乗れる公園やスケボーで遊べる公園
- 自然と触れ合える場所
- 中学生が集まれるような場所
- 子供向けの仕事体験パーク
- お金がかからず気軽に来れる場所

など

皆さんの意見を踏まえて、子供が伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに取り組んでいきます

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

子供の意見を反映した遊び場づくりに取り組む区市町村を支援 <2023年度子供の遊び場等整備事業採択事例>

<区市町村の企画・提案書を基に作成>

世田谷区　砧地域外遊び拠点事業

プレーパーク　学び　居場所　相談場所　インクルーシブ

- 子どもが自然の中で**自由で主体的且つ創造的な外遊びが出来る場**として、砧地域に**プレーパークやリーダーハウスを整備**し、**地域で子どもを見守り支える環境**をつくる
- 地域の外遊び拠点として、**外遊びの啓発・推進**を行う
- 子どもの遊び場を中心とした**多世代交流**が生まれ、地域のコミュニティづくりにつなげていく

【子供の意見聴取・整備内容等への反映】

- **公園、児童館、地域交流イベント等でヒアリングを実施**し、整備内容に反映
- プレーパークを知らない子でもイメージできるように、遊びのカードを活用
- **子どもの意見を踏まえて、フリースペースを広く確保し、自由に過ごせるように設計**するなど、様々な意見を反映できるように工夫

日野市　遊びを核としたインクルーシブなコミュニティ形成の場づくり

ボール遊び場　プレーパーク　学び　居場所　インクルーシブ

- 公園を３つのエリアに分け、オープンエリアには**大きな原っぱ**と**インクルーシブ遊具**等を設置し、スポーツエリアには**ボール遊び・球技ができるスペース**を確保、自然・文化体験エリアでは**プレーパークの機能促進**
- この遊び場づくりをきっかけに、子どもの思いの実現を大人がサポートしていく関係を育み、年代差をこえる、誰もが使いやすい、**遊びを核としたインクルーシブなコミュニティの場づくり**に取り組む

【子供の意見聴取・整備内容等への反映】

- 近隣の小学校・特別支援学校やプレーパークを利用している子どもを対象に、**全４回のワークショップやアンケートを実施。**遊び場のゾーニングややりたい遊び・スポーツなどについて意見交換し、**「こども提言」を取りまとめ**、公園設計に反映するなど**子ども参加型の公園設計に市として初めてチャレンジ**
- 子どもの意見をふまえ、**「やりたい」をかなえる**遊び場の機能を更に充実強化

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

子供の意見を反映した遊び場づくりに取り組む区市町村を支援 <2023年度子供の遊び場等整備事業採択事例>

<区市町村の企画・提案書を基に作成>

墨田区

子供の「遊び・居場所・インクルーシブ」を重点とする地域交流の拠点となる公園等再整備プロジェクト

ボール遊び場　居場所　インクルーシブ

- 墨田区内の３つの公園で、**ボール遊び場、スケートボードパーク、インクルーシブ遊具などを整備**
- 仮設の**ボール遊び場を恒久施設化**することで、ドッジボール、サッカーのパスやシュート練習、バスケットボールのドリブルができるようになるなど**利用の幅が広がる**
- 仮設の**スケートボードパークを恒久施設化**することで、**利用時間が長くなり、初級・中級向けのセクションの増加**が実現

【子供の意見聴取・整備内容等への反映】

・設計時に小学校や児童館、幼稚園・保育園、近隣町会、老人福祉施設等に**アンケート調査を実施し、ニーズを反映**
・ボール遊び場については、どんな球技がしたいかなど、**子供から直接ヒアリングを実施し、地域要望に沿って運用**
・仮設のスケートボードパークの**利用者やボランティア団体の意見を設計に反映**

目黒区

子どもの居場所と学びの場となる公園整備

学び　居場所　インクルーシブ

- **遊び・学び・ふれあい等の機能を備えた**充実した子供のサードプレイスとなる公園を整備
- 緑が水を蓄える力を活用した**グリーンインフラを整備**し、トンボ等の生き物を呼ぶことで、**子どもたちが生きものに触れる学びの機会**を創出
- **子どもの声を反映した安全な遊び場を整備**し、障害の有無にかかわらずあらゆる子どもたちが遊べる**インクルーシブな公園**へ

【子供の意見聴取・整備内容等への反映】

・近隣の小学校や幼稚園・保育園で**アンケート調査を実施**し、広場の確保やみんなで滑る遊具の整備など、**設計に反映**
・公園であおぞら意見交換会を開催し、**親子連れに直接ヒアリング**
・**小学校で出前授業を実施**し、子どもたちが描いた絵やグループワークで出た意見を踏まえて、整備内容を検討

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

子供の意見を反映した遊び場づくりに取り組む区市町村を支援 <2023年度子供の遊び場等整備事業採択事例>

<区市町村の企画・提案書を基に作成>

小金井市　市立公園を活用した共生社会実現のための子供の遊び場づくり事業

学び　居場所　インクルーシブ

- **あらゆる子ども（障がいのある子・ない子、外国にルーツを持つ子）や保護者同士が気軽に参加できる遊びや体験**ができるように、**インクルーシブデザインに配慮した遊び場等を整備**することにより、**共生社会を実現**
- 子どもの意見を踏まえ、インクルーシブ遊具、車椅子に乗ったままでも作業ができる菜園、子どもたちの居場所・親同士の交流の場を整備

【子供の意見聴取・整備内容等への反映】

- **３歳から高校生までの親子を対象**とした**市内４か所の公園でのアートの要素を取り入れたワークショップ**などを、**３か年かけて開催**し、**公園のイメージづくりや整備内容・整備後の活用等について具体的に検討**
- **WEBアンケートや市内の支援施設等への聞き取り調査**なども実施し、広く子どもの意見を聴取

国立市　多世代にわたる子供たちの遊び場充実のための新たな子育て・子育ち支援拠点の整備

学び　居場所　インクルーシブ

- 「子どもステーションくにたち」をコンセプトに、子育ての手助けをしてもらえ、**子どもたちが学べる、集える、安心できる場所**を整備
- **未就学児・保護者のための「子育てひろば」**や、**青少年を対象とした「学習・交流・たまり場」をコンセプトとした空間など屋内施設の整備**により、**遊び場不足を解消**
- 駅前という立地条件を生かして、子育て・子育ちに関する情報発信を強化

【子供の意見聴取・整備内容等への反映】

- 未就学児の保護者向け・中高生向けの**ワークショップの開催、小学校や高校で授業形式での意見聴取、中高生向けのWebアンケート**など、**多様な手法により異なる年代の子どもたちの声を集め、設計に反映**
- ワークショップや授業形式での意見聴取では、設計者の建築士が説明し具体的にイメージできるように工夫

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

子供の「遊び」推進プロジェクト

Let's PLAY SCRAP#PARK !!
プロジェクト実施団体　一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター

@大田区

世界に誇る「モノづくりのまち」として知られる**大田区の町工場から出る廃材を活かして**、その場で**自由に工作**するプロジェクト。普段あまり目にすることのない素材を**じっくり観察**し、イメージを膨らませながら**試行錯誤**し、工作スペースにある様々な道具にも**挑戦**しながら**「つくる」ことを楽しむ**。

めぐろプレーパークキャラバン隊
プロジェクト実施団体　めぐろあそびばねっと

@目黒区

こどもを中心とし、保護者、地域住民、学生ボランティアでプレーパークキャラバン隊を結成！**目黒区内の公園の特色を生かして**、**出張プレーパークを開催**するプロジェクト。こどもたちが廃材、水、火、土等を使って、**遊びを通して自分を表現できる環境**をつくり、ウォータースライダーや竹ジャングルジムなど**ダイナミックな遊びにも挑戦**

「“自由な発想”で“工夫”して遊ぶ」をテーマにプロジェクトを募集し、８件実施しました

夏休みだよ、全員集合！むかし遊びバンブースペシャル＆水と光のワンダーランド
プロジェクト実施団体　NPO法人ファザーリング・ジャパン

@西東京市

「竹弓矢」のワークショップや「的当て競技」など、**普段なかなか体験できない遊び**を親子で楽しむプロジェクト。竹を切断し、**アレンジしながら制作に取り組む**竹玩具ワークショップ、水風船や水鉄砲で**水の感触を楽しむ**水合戦、遊んだ場所をランタンで**自由に装飾**するワークショップを実施

森で遊ぼう 2023
プロジェクト実施団体　NPO法人こだいら自由遊びの会

@小平市

赤ちゃんから大人まで、障がいのある子もない子も、自由に遊べる空間となるように、夏休みの５日間、涼しい林の中で**プレーパークを開催**するプロジェクト。
穴掘りや、滑車ロープ、ハイジブランコ、ハンモックなどのロープ遊具、木工作コーナーなど、**木や土などの自然の素材を使って**、**普段はできないような冒険遊び**ができる。

＜プロジェクト実施団体の企画・提案書を基に作成＞

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

「遊びの工夫」が「生きる工夫」につながっている！

子供の「遊び」推進プロジェクトcfoo 特設サイト

「やってみたい」を応援！プレーパークで遊ぼう！
プロジェクト実施団体　冒険遊び場の会たちかわ

みんなが自由に思いきり遊べる場所を作り、**こども達の「やってみたい！」を応援**するプロジェクト。**立川市内３か所の公園でプレーパークを開催**。ターザンロープ、ベーゴマ、水遊び、段ボールで基地作り。たくさん遊び尽くすも良し、何もしないでのんびりするも良し。**誰でも自由にのびのびと過ごせる場所づくり**に取り組む。

@立川市

「みんなが森のおんがく隊！」～じぶんの楽器をつくってセッションしよう～
プロジェクト実施団体　アソビバ江東 さるえプレーパーク

公園にある自然の素材（どんぐり、まつぼっくり、枝、木の実、石など）や木材、廃材（段ボール、箱、筒など）を**自由に組み合わせてオリジナルの楽器をつくる**プロジェクト。パーカッション奏者や、ギター、カリンバ、楽器づくりの講師を迎え、**子どもたちが作った楽器でセッション**

@江東区

夏休みからスタートし、36日間開催。延べ7,187人（子供・保護者等）が参加しました

こどもからお年寄りまで　みんなで遊ぼう！お祭り遊び！
プロジェクト実施団体　NPO法人Chance For All

大学生ボランティアが中心となって、**地域の大人がこどもたちと一緒に「お祭り」を企画**するプロジェクト。随所に**改変可能な「余白」を用意**しておくことで**こどもたち自身が新たな遊びを生み出したり**、こどもたちがただ大人の作ったコンテンツを消費するのではなく、**地域の大人や大学生、高校生と一緒に楽しい空間をつくる。**

@足立区

学校にプレーパークをつくっちゃおう!
プロジェクト実施団体　昭島市立光華小学校　学校サポートチーム「あそびまくり！」

光華小学校の校庭内に、プレーパークを設置するプロジェクト。土山・砂場・水遊び、ロープを使ったバランス遊びや大きなハンモック、木工滑り台の配置等を行い、**子供たちが自由な発想や工夫で遊べる空間**を開設
学校が地域のハブステーションになることを願い、**地域全体で遊びの機運を盛り上げる。**

@昭島市

<プロジェクト実施団体の企画・提案書を基に作成>

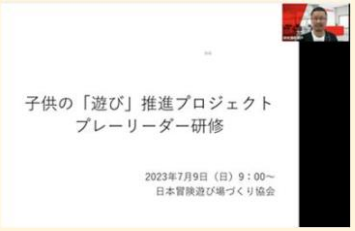
これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

子供の「遊び」推進プロジェクト CFOO クフー

人材育成　プレーリーダーとして必要なスキルを学ぶ研修実施

座学研修

研修内容は、「遊びの意義と子供の発達」、「インクルーシブな遊び場づくり」、「子供への関わり方」、「遊び場における危険管理」など多岐に渡り、グループワークも交えて実施



実地研修

・事前に実施場所を点検しながら、危険管理の考え方について認識を共有
・イベント当日には、子供が実際に遊んでいる場所で子供への寄り添い方や声掛けなどについてOJTを実施

プレーリーダー研修テキストの作成

研修の内容をわかりやすくまとめ、デジタルブックとして公開（2024年2月頃予定）

地域広報　約6万枚のチラシ・ポスター配布し、地域の広報を強化

学校や幼稚園・保育所、児童館等の地域の子供関連施設に広く配布

子供参画　プロジェクトの企画段階に子供たちが参画

子供たちが考えた「やりたい遊び」が実現

（こどもからお年寄りまでみんなで遊ぼう！お祭り遊び！）

↑どんな遊びがしたいか、アイデアを出す子供たち

商店街と連携してスタンプラリーが実現！

↑看板づくり

子供たちも準備に参加

↓ロープ張り

「ここの部分は僕が提案したんだ！」
「本当に出来た！最初は出来ないと思った！」

子供のアイデア→で滑り台を制作

滑り台が完成！子供たちに大人気

子供たちが考えた「滑り台」を制作

（学校にプレーパークをつくっちゃおう！）

これまでのアクション・ 子供の意見反映等の取組

「遊びの工夫」が「生きる工夫」に
つながっている！

子供の「遊び」推進プロジェクトcfoo
特設サイト（動画）

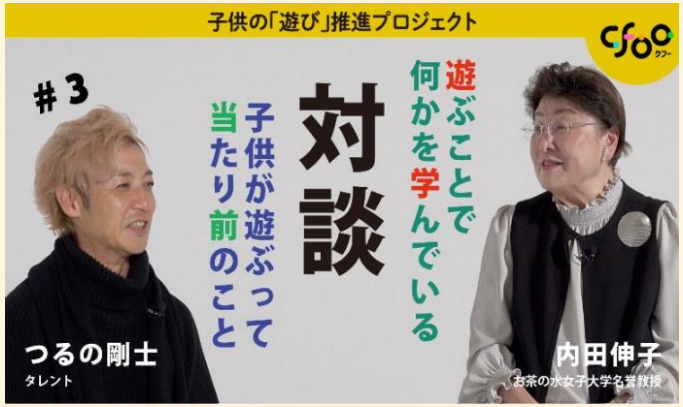
情報発信

子供にとっての「遊び」の重要性や魅力を伝える動画を公開

つるの剛士さんと内田伸子先生が「子供の遊び」について語る#3

←つるのさんが
プロジェクトを体験

子供が挑戦する姿 →
につるのさん感動



←内田先生が
これからの時代
を生きるために
大切にしたい
ことを語る

子供にとって「遊ぶ」ことは生きるチカラを育むこと

・作る時に**工夫**したりして**楽しい**
・「遊ぶ」という心があまり遊んでいない人の**心を養える**
・ベーゴマができたときの**たっせいかん**がすごかった
・ターザンロープのいちが高くて、**スリル満点**
・**さいごまでチャレンジ**したほうがいいなと思った
・おまつりや**ちいきの人達と遊べるきかい**がほしい
・組み立てることが**楽しく、集中してできた**
・**年代かんけいなくあそべて**とてもよい
＜表現は原文のとおり記載＞

子供（参加者）の感想

ダイジェスト映像
夏休み編#1

子供の声、大人の声、
プレーリーダーの声を
ぎゅっと凝縮

ダイジェスト映像
秋冬編#4

「遊び」には何かがある！#2

・**目が輝いていた**のが印象的
・子供の口癖が「ママはダメダメばっか！」だったので、**思いっきり好きなことして遊ばせる**ことができて親としての気持ちの整理に
・コロナを過ごしたせいか、子供は他の人と話すことへの恐怖心が。**沢山の人が喋りかけてくれる環境**がとても貴重
・**障がいのある子どもたちも自然に溶け込んでいて**境の無い調和した感じがとても良かった
・今妊娠中ですが、**子育てをするならこういう地域でしたい**と心から思いました

大人（参加者）の感想

リーディングプロジェクト

子供を事故から守る環境づくり

子供が事故から守られ思い切りチャレンジできる

子供が成長に応じて、
様々なことに好奇心を持ち、
思い切りチャレンジできるよう、
事故が起きにくい環境をつくる。

子供を事故から守る環境づくり

推進チーム 子供政策連携室・生活文化スポーツ局・都市整備局・住宅政策本部・福祉局・保健医療局・産業労働局・建設局・教育庁・警視庁・東京消防庁

「防げる事故」を確実に防ぎ、子供が安心してチャレンジできる社会を実現

産官学民連携の下、エビデンス・ベースの予防策を展開し、子供の事故が起きにくい環境づくりを推進する

政策強化の方向

「変えられるもの」を３つの着眼点から取り組み、予防策を強化

1. 行動変容
2. 環境改善
3. 効果検証

事故予防における着眼点とは

- ✓ 事故が起きないよう、**見守るだけでは限界**がある
- ✓ **「変えられるもの」を「変える」**ことで**事故を予防**できる

例えば…　川で遊ぶときの安全対策

変えたいもの
川でおぼれてしまうこと

安全な製品を準備しよう！
みんなでルールを守ろう！

変えられないもの
水量や流れる速さ

変えられるもの
ライフジャケットをつける

事故予防を考えるための着眼点
- 行動変容
- 環境改善
- 効果検証

産官学民の連携の下、子供の事故予防のサイクルを回しながら、子供の事故が起きにくい社会を実現

ウェブサイト・広報
提言をはじめとする事業の成果や事故予防の取組を戦略的に発信

データベース構築
事故データ・事例等を収集

収集したデータを分析

再現実験などを通して子供の行動特性を解明

エビデンス・ベースの事故予防策(提言)を開発

セーフティ・レビュー

基礎研究

関係各局 ⇄ 産官学民

行動変容・環境改善・効果検証の着眼点から、予防策を推進

今後のアクション

1 行動変容

子供の事故予防に向けた気運を醸成
（セーフティ・レビュー事業／子供政策連携室）

- **新たにウェブサイト「東京都こどもセーフティプロジェクト」を開設**し、子供の成長や行動に合わせて「危ないところを変える」という**環境づくりの重要性や、都における事故予防の施策・成果等を発信**
- 子育て家庭等に身近なデジタル広告等を活用しながら、**ウェブサイトと連動した広報**を実施し、事故予防に向けた**理解を促進**
- 事業者等を対象に、エビデンス・ベースの事故予防策などをテーマに**セミナーを実施し、子供にとって安全な環境・製品づくりを後押し**

子供の事故予防デジタルブックの普及啓発
（事故防止情報等リ・デザイン事業／子供政策連携室）

- 「乳幼児」「小学校低学年」「小学校高学年」「中高生」の対象別にとりまとめた**「子供の事故予防デジタルブック」**を戦略的に普及啓発するため、**新たに動画を制作し、SNSやイベント等で情報発信**
- 保護者が気軽に手に取って読めるよう、**「乳幼児」編はハンドブックとして、区市町村や子育て関連施設等に配布**

子供の事故状況をまとめたアニュアルレポートを発信
（セーフティ・レビュー事業／子供政策連携室）

- 複数の統計データを収集し、過去のデータとの比較分析等を行い、**直近の子供の事故についての特徴や傾向をまとめ発信**

データ
事故の発生件数の推移を踏まえながら、事故の特徴等を定量的に整理

テキスト
ニュースや新聞記事、研究論文などのテキストを収集し、事故の発生傾向等を定性的に整理

アニュアルレポートを発信

子供の事故防止に向けて各局と連携した取組 ～ベランダ等からの転落事故防止に向けた取組　編～

- □ 東京都出産・子育て応援事業の商品カタログに、補助錠などの安全対策グッズを引き続き掲載（福祉局）

- □ 「子供を守る」住宅確保促進事業を実施（住宅政策本部）

- □ 注意喚起動画「STOP! 子供の転落事故」を多様な媒体で展開（生活文化スポーツ局）

1 行動変容

日常生活での製品事故を予防（生活文化スポーツ局）

- 事業者等と連携して、子供の安全に配慮した商品見本市を開催し、安全・安心な商品をPR
- 子供の安全に配慮した商品の**顕彰に係る費用を負担**

安全な商品見本市
セーフティグッズフェア

乳幼児の事故を予防（福祉局）

- 子供の年齢・発達段階に応じて変化する危険な場面を大人が学習できる**事故防止学習ソフト**や、幼児の視界を体験できるチャイルドビジョンなど、**子供目線に立った体験型コンテンツを発信**

学校での事故を予防（教育庁）

- 子供が危険を予測し回避する能力等を身に付けられるよう、**学校における安全教育を推進**
- 教員向け指導資料**「安全教育プログラム」のデジタル版を配信**

日常生活での事故を予防（東京消防庁）

- 救急搬送データを分析し、**新たに制作したアニメーション動画**や冊子、SNS等により、子供の年齢・発達段階に応じた日常生活での事故防止のための普及啓発を実施

自転車事故を予防（生活文化スポーツ局） 拡

- 自転車走行シミュレーションの操作性を向上させ、子供でも簡単に体験できるよう、スマホ・タブレットを活用した**体験型自転車安全利用学習アプリ（「輪トレ」）を改良**

交通事故を予防（警視庁）

- 子供の年齢・発達段階に応じて、交通事故防止のための**教育やチャイルドシート設置、ヘルメット着用**の普及啓発を実施

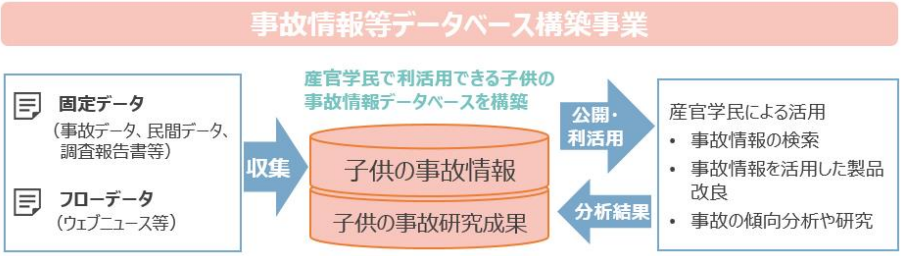
川での水難事故を予防（建設局）

- 都内全小中学校の各学級に**水難事故防止**のポスターを配布

2 環境改善

子供の事故情報データベースを構築（事故情報等データベース構築事業／子供政策連携室）

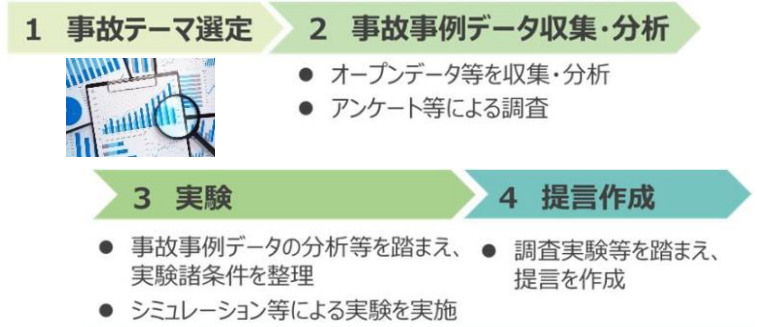
- 子供の事故情報を**産官学民で利活用できるオープンデータベースを設計・開発**し、**2024年度末に一部公開・ 2025年度に完全公開予定**
- **傷害予防、AI分析、法律の専門家等から構成するワーキング・グループ**や、**データ保有機関・関係局等との検討の場**で、収集する情報・データの範囲やデータの利活用の在り方、データベースに必要な機能等について幅広く**意見交換**



事故予防に向けた提言を実施（セーフティ・レビュー事業／子供政策連携室）

- 社会的なトピック等を踏まえ、**具体的な事故テーマ**を選定し、関連するデータや事例の調査・実験等を行いながら、**事故予防のための提言をとりまとめ**

【提言までの流れ】



子供の事故予防につながる基礎研究を実施（セーフティ・レビュー事業／子供政策連携室）

- ３か年を上限に、子供の事故予防に関する基礎研究を実施
  - **子供の事故に関する多くのデータ・情報**を収集・解析するとともに、**事故実態を解明**し、**子供の事故リスクを可視化**
  - 事故につながるハイリスクな製品や、様々な環境下での子供の行動特性を可視化し、**事故予防策開発のためのエビデンスとなる行動分析を実施**
  - 科学的手法に基づき創出した**新たな知見等を基に**、子育て家庭や学校現場で役立つ**啓発ツールを開発**するとともに、**子供の事故実態を踏まえた体験型の取組を実施**
  - 子供の事故予防に取り組む産官学民が**基礎研究の成果を活用していくための手法等を検討**

2 環境改善

安全な住宅環境を実現（住宅政策本部）

- 東京こどもすくすく住宅の更なる供給促進に向け、**住宅事業者等に対する直接補助の規模を大幅に拡大** 拡
- 分譲マンションなどに居住する子育て世帯を対象に「子供を守る」住宅確保促進事業を実施

製品の事故情報を共有（生活文化スポーツ局）

- 消費者及び事業者の情報交流等を通じて、商品等の安全対策に役立てるため、NPOが運営する「**こどものケガを減らすためにみんなをつなぐプラットフォーム**」に係る運用を支援

安全な交通環境を実現（警視庁）

- 子供の利用機会が多い交差点の信号機を対象とした**歩車分離式信号の導入など信号機を改良**

子供の事故実態の解明を支援（保健医療局）

- 医療機関における子供の傷害データの収集等について、救命現場の専門的見地から助言

安全な製品開発・改良を支援（産業労働局）

- 安全・安心な東京の実現に向けた製品開発支援事業において、**子供の事故予防等に資する技術・製品の開発・改良に取り組む事業者に対して支援**を実施
- TOKYO戦略的イノベーション促進事業において、イノベーションマップにおける**「子育て支援等」のテーマに沿って製品開発に取り組む事業者に対して支援**を実施

工事現場周辺の安全対策を強化（都市整備局）

- 小学生や保育園の先生へのアンケート・共同パトロールで得られた意見や視点を踏まえて作成した**工事現場管理事例集を活用し、工事現場の関係者における事故防止対策**を推進

安全な通学路を実現（建設局）

- 子供が日常的に利用する通学路について、**安全・安心に通行できるよう交通安全対策などのハード対策を実施**

3 効果検証

効果検証手法を開発 （セーフティ・レビュー事業／子供政策連携室）

- 開発した事故予防策の実効性を強化するため、蓄積した事故データを活用しながら、**予防策の効果検証手法を検討**

製品事故を検証（生活文化スポーツ局）

- 商品等による危害の防止を目的とし、消費者代表・事業者代表・学識経験者が安全対策について協議 （**東京都商品等安全対策協議会**）

死亡事故を検証（福祉局）

- 子供の死亡事例について、関係機関と連携しながら、**子供の死に至る情報の収集、予防可能な要因の検証、効果的な予防策の提言を実施**（**チャイルド・デス・レビュー**）

３か年のアクション（主要）

具体的な取組	2023年度末（見込み）	年次計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
セーフティ・レビュー事業	・転落をテーマに提言	具体的な課題に対する解決策を提言（毎年）		
	子供の事故予防につながる基礎研究（３年間）			
	・ウェブサイトを開設	ウェブサイトを活用しながら、提言や事故予防の取組等を普及啓発（毎年）		
事故防止情報等リ・デザイン事業	・デジタルハンドブックを作成	ハンドブックを普及啓発		
事故情報等データベース構築事業	・要件定義/関係機関連携	ビルドアップ（情報の拡充）	ビルドアップ（機能の拡充）	データベースの利活用

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

◆ 子供目線に立った「子供の事故予防に関するデジタルハンドブック」を制作しています。

ステップ1 ワークショップ ▶ ステップ2 アンケート ▶ ステップ3 出前授業

◆ 子供の事故予防ハンドブックとは

各局等が行っている子供の事故予防に関する広報に**横串を刺し**、子供の傷害予防に取り組む**研究者の知見**や、メディア戦略に係る**有識者の視点**などを取り入れながら、子供目線に立った子供の事故予防に関するデジタルブックを制作

住宅政策本部　東京消防庁　警視庁　福祉局　生活文化スポーツ局　など

各局等の事故予防策の広報

子供の成長発達に合わせる

<イメージ>

✓ 乳幼児・小学校低学年・小学校高学年・中高生の**4つの区分**ごとに制作
✓ 各年齢区分に**特徴的な事故事例とその予防策**について分かりやすく紹介

◆ ハンドブックの制作過程に子供たちが参加し、一緒に内容を検討しました!

ステップ1 ワークショップ

ワークショップは**区・市の小・中・高校、学童クラブ**の**7か所で実施し、総勢137人**の子供たちが**参加**
子供たちと一緒にハンドブックに**盛り込む内容、具体的な表現方法**などについて**検討**

葛飾区立 花の木小学校	板橋区立 板橋第三中学校	国分寺市立 第十小学校	株式会社パソナフォスター MiracleKidsGakugeidai	一般社団法人東京学芸大 EXPLAYGROUND推進機構	クラーク記念 国際高等学校	東京都立 昭和高等学校

「しなさい」という命令言葉で伝えられるより、「しようよ」という、**同じ目線に立った言葉**で伝えてもらえると共感しやすい
クラーク記念国際高等高校

ボリュームが多すぎると若い人は見ない思う
国分寺市立第十小学校

表紙にインパクトがあると読んでみたくなる
東京都立昭和高等学校

事故にあったらどうなってしまうか具体例があると、事故にあわないように気を付けようという気持ちになる
株式会社パソナフォスター Miracle Kids Gakugeidai

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

◆ ハンドブックの試行版に対して、子供たちからたくさんの意見をいただきました!

ステップ2 アンケート

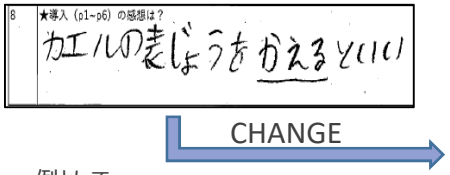
ワークショップに参加した子供たちに、「見やすさ」「わかりやすさ」などについて**アンケートを実施**

Q デジタルハンドブックの表紙をみてどう感じるか

A カラフルでかわいいデザインなので読んでみたいと思う

ステップ3 出前授業

出前授業は、都内の小学校、高校において３か所（７学級）実施
授業の中で、ハンドブックの内容について**意見を聴取**



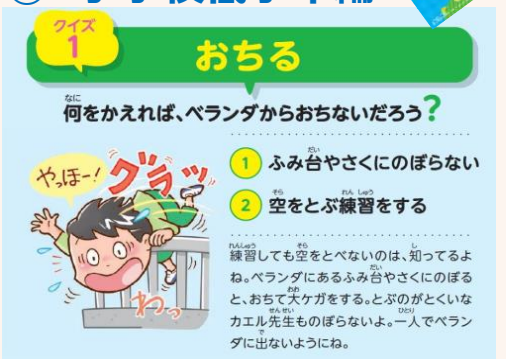
意見を反映したイラスト

一例として、
子供たちの意見を反映し、カエルの表情を豊かにしました

千代田区立麹町小学校

制作中のハンドブックの一押しポイント！

① 小学校低学年編



<イメージ>

子供たちと制作したクイズを掲載しています

② 小学校高学年編

<イメージ>

楽しく学べる「変えるところ探し」があります

③ 中高生編

<イメージ>

「四コマ漫画」の形式で事故事例が読めます

④ 乳幼児編

子供が飲み込むものの大きさ

トイレットペーパーの芯を通る大きさのものなら、口の中に入れて飲み込んでしまう危険性があります。誤って飲み込んでしまいそうなものがないか、子供の目の高さで家の中をチェックしましょう。

<イメージ>

保護者に役立つワンポイント・アドバイスも!

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

「転落」をテーマに、エビデンスに基づいた事故予防策（提言）のとりまとめを進めています

転落をテーマにした背景　＜乳幼児の落ちる事故＞

- 多い発生件数
- 例年ほぼ変わらない傾向

- 重症化する傾向

入院を要する
「中等症」以上の割合

13.7%

提言に至るまでのフロー

特徴

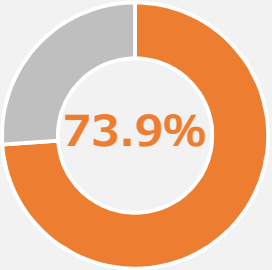
予防策の検討において重要な要素である、
「**子供の身体能力の基礎データ**」を**収集・整備**

Step 1 統計分析

□ 事故の傾向をつかみ、対策が必要と考えられる**事例等を抽出**

【主な特徴】

0～5歳の子供の事故発生場所は、**住居等居住場所が多い**



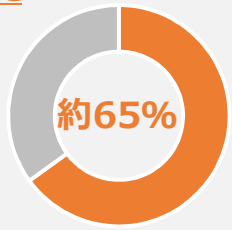
Step 2 アンケート調査

□ Step1にて把握した事故の傾向を基に、乳幼児をもつ保護者を対象に、**WEBアンケート調査を実施**

【主な特徴】

子供が**転落した又は転落しそうになったことがある**

転落した又は転落しそうになった場所へ**子供自身がよじ登って移動した**

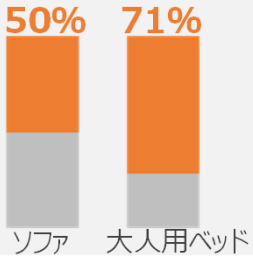


Step 3 インタビュー調査

□ Step1～2では把握が困難な転落事故の原因や周辺状況について、**保護者を対象に、オンラインまたは家庭訪問**により、詳細を**ヒアリング**するとともに、**写真・3D画像を収集**

【主な特徴】

1歳の子供が転落したケースのうち、寝返りにより転落した割合



事故につながった家具

3D画像により計測・解析

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

Step 4
研究

□ Step１～３を踏まえ、0～3歳の乳幼児を対象に、転落の原因となる「よじ登り」・「寝返り」に関する、行動分析を実施

➢ 保育園の協力の下、「よじ登り」の研究には、38人のお子さんに参加いただきました。

□ 専門家より実施内容を説明

□ 安全に配慮しながら実施

□ 子供の動作を3D計測

今回の研究のために**新たに「よじ登り装置」を制作**し、子供たちが**よじ登れる「高さ」と、よじ登る際に装置にかかる子供の「力の大きさ」**を、年齢別に計測し、これらのデータを**3D解析**しました。

➢ 「寝返り」の研究には、15人のお子さんに参加いただきました。

クッションマット上で、乳児が**寝返りをする速さと移動する距離**を計測し、これらを**3D解析**しました。

提言

科学的手法を基に、提言をとりまとめ

分析・調査・研究結果を踏まえ、「行動変容」・「環境改善」を軸として、事故予防につながる解決方法や安全対策を提言していきます！

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

産官学民が利活用できる「子供の事故情報データベース」を構築中です。
現在、データベースの在り方について、多分野から意見をいただきながら、要件定義をとりまとめています！

専門家の意見

傷害予防、情報処理、データサイエンス、法律、医療などの専門家で構成するワーキング・グループを開催し、多角的な意見をいただきました

東京工業大学 工学院 教授 西田 佳史

産業総合技術研究所首席研究員 本村 陽一

国立情報学研究所 教授 相澤 彰子

弁護士 澤田 将史

東京都立小児総合医療センター 医師 岸部 峻

産業総合技術研究所 主任研究員 北村 光司

- **一元的に事故情報を収集して蓄積するシステムが必要**
- **ユーザごとのニーズを整理するべき**
- 事業者や教育現場の意見も聴くと良い
- 柔軟に開発できるよう、徐々に**ビルドアップ**したほうが良い

事業者の意見

子供の安全な製品や、食品・飲料の製品開発等に取り組む事業者にヒアリングしました

菓子業界
損保団体
飲料メーカー
食品メーカー
玩具業界　など

- **子供の事故データを参照したい**
- **データベースがあれば、有用な情報に気づくことができる**
- **社内の研修材料を作成する際、参考にしたい**

様々データを収集

分かりやすく表示・発信

ビルドアップ

スモールスタート

研究者や事業者の成果を入れる

様々な意見を参考にデータベースを構築中!

子供たちの意見

ワークショップや出前授業を通じて子供たちと対話しました

色々な事故情報が**検索できるといい**と思う！

一般社団法人東京学芸大 EXPLAYGROUND推進機構の中学生

情報を**知ることは大切**だと思う

クラーク記念国際高等学校の高校生

自分の年齢に合った事故情報を知りたい

葛飾区立花の木小学校の小学生

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

子供の事故防止に向けて各局と連携した取組 ～送迎バス等置き去り防止に向けた取組～

教育・保育施設における送迎バス等への安全装置の装備

2023年度中に、送迎バス等への安全装置の装備完了

都立特別支援学校における取組例
左:バスに付ける安全装置本体
右:バス後方にある点検ボタン

教育・保育施設における安全管理の徹底 ＜保育園や幼稚園等の施設における好事例＞

① 送迎バスの運行時の取組（置き去り防止）

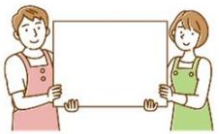
- ✓ バス便数ごとに名簿を作成し、バス乗降時に子供の人数や名前等を、複数の職員でチェック
- ✓ 子供の名前と人数を名簿で突合するとともに、バス停の番号が記された座席に子供を案内
- ✓ バス乗降アプリから当日のバス利用の有無を示したコース表を印刷し、出欠確認

② 降車後の再確認の取組（見落とし防止）

- ✓ 降車時に加え、降車後の車内確認を計３回実施（保育士が１回目、運転手が２回目、最終消毒に戻ってきた保育士が３回目）
- ✓ 園児がバスを降車した後の車内最終確認後、「安全点検済」の表示をバスに掲示し、可視化

③ 組織としての情報連携の取組（組織的な安全対策）

- ✓ 普段バス乗車を行わない職員にも確認手順等を周知
- ✓ バス当番の職員が、当日のバス乗車人数や降車人数などの報告事項を各クラスのホワイトボードに記入し、職員間で共有



④ 万が一の時のための備え（子供に対する取組）

- ✓ 車内昇降口付近に紐を引くタイプの市販の防犯ブザーを取り付けており、非常時には紐を引いて知らせるよう、子供に周知
- ✓ 車内昇降口付近に非常用ボタンを設置し、ボタンを押すと職員室内で非常ベルが鳴る仕組みを構築し、子供に周知

リーディングプロジェクト

ヤングケアラーを支える

誰もが自分らしく暮らせる

一人で抱え込まずに、
自分に合ったサポートを受けながら
安心してなりたい自分を目指せる社会をつくる。

ヤングケアラーを支える

推進チーム 子供政策連携室・政策企画局・総務局・生活文化スポーツ局・福祉局・保健医療局・産業労働局・教育庁

子供が直面する実情に寄り添ったきめ細かい支援を展開

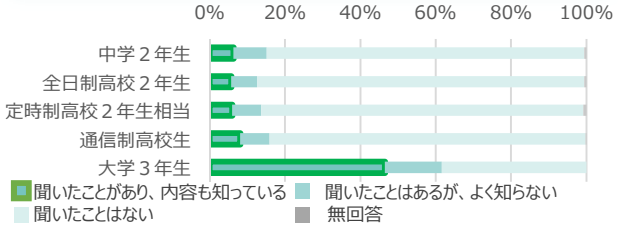
子供の気持ちやケアを要する家族の多様な状況を踏まえ、多機関連携の下、一人ひとりのニーズに応じて多面的なサポートを実施

政策強化の方向

1. ヤングケアラーを早期に把握する環境づくりの推進
2. 多機関連携の基盤及び情報共有体制の強化
3. ヤングケアラーへの多面的・継続的な支援の拡充
4. ヤングケアラーがいる家族全体のニーズに対する支援の強化

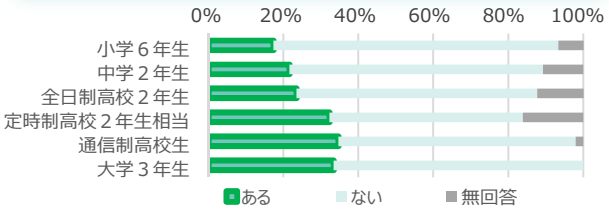
ヤングケアラーに関する認知度向上の取組や、支援の強化が必要

ヤングケアラーの認知度



⇒ 当事者世代の認知度が低い

世話について相談した経験



※ 通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

⇒ 相談・支援につながっていない場合が多い

（資料）厚生労働省「令和２年度ヤングケアラーの実態に関する調査研究」及び「令和３年度ヤングケアラーの実態に関する調査研究」を基に作成（※各世代の調査時点は異なる）

気付く → つなぐ → 支援する・見守る

気付く	つなぐ	支援する・見守る	
普及啓発	区市町村の連携体制強化	身近な居場所の整備	家族全体への支援
ホームページの広報展開	ネットワーク構築・支援	学校外の居場所の充実	家族のニーズを踏まえた支援
交流機会	人材配置・育成支援	相談体制の整備	要介護者への支援にヤングケアラーの視点追加
当事者同士の対話の場の創出	ヤングケアラー・コーディネーター配置促進	心身の相談 将来に向けた相談	

分野横断
福祉・医療・教育・就労等

LIVE
対面でのきめ細かい支援

DX
オンライン相談やシステムによる情報連携

今後のアクション

1 ヤングケアラーを早期に把握する環境づくりの推進

ヤングケアラーに関する情報発信及び交流機会を創出（ヤングケアラー普及啓発事業／子供政策連携室）

- ヤングケアラーについて理解を深めるため、ヤングケアラー当事者目線の内容を盛り込んだコンテンツを充実し、ホームページを戦略的に広報することにより、**正しい知識の浸透や社会的認知度を向上**
- **ヤングケアラー当事者が「リアル」で交流し、経験の共有**や**今後都に求められる施策等について意見交換**できる場として、**座談会**を開催 新

ヤングケアラー支援ホームページ

都主催のヤングケアラー・ワークショップの様子（2023年８月）

システムを活用した要支援生徒の情報共有（都立学校の不登校・中途退学対応／教育庁）

- 都立学校において**情報共有システムを活用**し、ヤングケアラーを含む要支援生徒への支援を強化

都立学校への出前授業を実施（都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム／教育庁）

- 企業や大学、若者支援に関する専門的知識や経験を有するNPO等と連携の下、学校のニーズ等に対応した**多様な教育プログラムを導入・実施**

支援団体・元ヤングケアラーによる出前授業

スクールソーシャルワーカーを活用（スクールソーシャルワーカー活用事業／教育庁） 拡

- 学校において、いじめや不登校、暴力行為、児童虐待、**ヤングケアラー**等の課題に対応するため、社会福祉等の専門的な知識を有する**スクールソーシャルワーカーの配置を拡充**することを目的として、**区市町村への補助**を実施

教職員の「子供のSOSを受け止める力」を高める取組を推進（児童・生徒の支援対策の実施／教育庁）

- **子供のSOSを受け止め**、支援する力を高めるための**教職員向け研修プログラムの活用**を促進

指導資料（映像編）

2 多機関連携の基盤及び情報共有体制の強化

ヤングケアラー・コーディネーター連絡会の設置・運営（ヤングケアラー支援事業／福祉局） 新

- ヤングケアラー・コーディネーター配置自治体間において、**実務上の課題や取組の工夫等を共有**するための**連絡会を新たに設置・運営**

ヤングケアラー・コーディネーター取組事例集の作成（ヤングケアラー支援事業／福祉局） 新

- ヤングケアラー・コーディネーター配置自治体での多機関連携ネットワークにおいて蓄積された**支援ノウハウ**や、**連絡会での検討内容を取りまとめ**、区市町村間で共有

ヤングケアラー・コーディネーターの人材育成の実施・配置促進支援（ヤングケアラー支援事業／福祉局）

- ヤングケアラー・コーディネーターの資質向上のため、事例検討やグループワーク等を活用した**研修を実施**
- ヤングケアラー・コーディネーターの配置促進のため、**区市町村への補助を実施**

ヤングケアラー・コーディネーター研修の様子（区部）

ヤングケアラー支援推進協議会の設置・運営（ヤングケアラー支援事業／福祉局）

- ヤングケアラー支援に係る**多機関連携の体制強化**に必要な取組を検討するため、**外部有識者、支援団体、区市町村関係部署職員等を構成委員とする協議会**を設置・運営

＜コラム＞ヤングケアラー・コーディネーターとは

ヤングケアラー・コーディネーターは、**ヤングケアラーと思われる子供に気付いてから、支援へのつなぎにおいて核となる人材**です。

ヤングケアラー・コーディネーターの役割の例

個別ケースへの対応

- **本人・家族との対話**
- 関係機関からの**情報収集**、関係機関への**相談支援・助言**、**他の関係機関へのつなぎ**、**支援方策**の検討
- **支援計画**作成
- ヤングケアラーの継続的な**見守り**

関係者との連携

- **研修**の実施
- 支援の担い手となる**地域の民間支援団体や、子供の居場所との関係づくり**

3 ヤングケアラーへの多面的・継続的な支援の拡充

学校内の居場所の創設 新
（都立学校における不登校・中途退学対応／教育庁）

- 都立のチャレンジスクール（１校）に**校内居場所カフェ**を設置し、**ユースソーシャルワーカーが日常の学校生活に関わり、**生徒との信頼関係を構築することにより、**生徒が抱える様々な課題・悩みを早期発見し、一人ひとりの生徒に応じた支援**を実施

地域における居場所づくり 拡
（子供の居場所創設事業／福祉局）

- 子供やその保護者が気軽に立ち寄れる**地域の居場所**を開設し、**子供に対する学習支援**、**保護者に対する養育支援**、**食事提供をはじめとした生活支援**等、地域全体で子供や家庭への包括的な支援を行うため、**区市町村への補助**を実施
- オンラインを活用した**居場所への参加を促進する取組**への補助を新たに実施

世田谷区事業（食事提供）

調布市事業（学習支援）

困難を抱える生徒をサポート（NPOと連携した学びのセーフティネット事業／教育庁）

- 高校生活を送ることに困難を抱えている生徒等に対し、生徒同士の**交流機会**の場や、**学習支援**、**進路・生活相談**の機会、**就労に向けた支援**等、一人ひとりの生徒に応じたきめ細かい対応を行い、日常の心の拠り所となる**居場所を都内４か所に設置**

都立高校等

学校との連携による支援

交流機会 | 学習支援

事業者（NPO等）

進路・生活相談 | 就労支援

高校復帰

就労先決定

高卒資格取得

ヤングケアラー相談支援等補助事業（ヤングケアラー支援事業／福祉局） 拡

- **ピアサポート**や**家事支援ヘルパー派遣**等を行う団体を支援
- 気軽に悩みや経験を共有できる**オンラインサロン**を設置・運営する団体を支援
- ヤングケアラーへの**進路・キャリア等の相談**や**イベント**を実施する団体を支援

ピアサポート

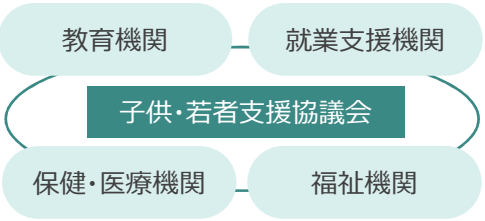
家事支援

オンラインサロン

イベント

子供・若者の自立等を支援する機関における連携体制の強化（子供・若者支援協議会／生活文化スポーツ局）

- 東京都**子供・若者支援協議会**において、教育、保健・医療、福祉、雇用等の各分野の関係機関、民間団体、区市町村等が連携して、社会生活を営む上での困難を有する子供・若者に対する支援を効果的かつ円滑に実施



アプリを活用した生徒の健康管理（都立学校版コンディションレポート／教育庁） 拡

- 学校が**生徒の心身の健康状態を日常的・継続的に把握**することにより、**支援が必要な生徒を早期発見**し、必要に応じて面談を行う等、**生徒への支援**を実施

生徒がスマートフォン等で入力

教員が回答を確認

情報を利活用し、必要な支援を実施

就労支援 拡（家庭と仕事の両立支援推進事業／産業労働局）

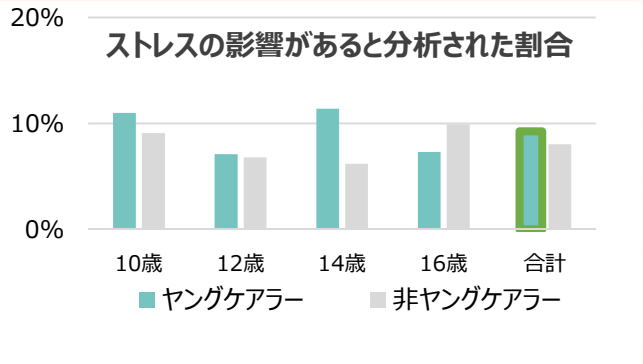
家庭と仕事の両立支援ポータルサイトにて、**ヤングケアラーに関するページを開設**し、企業の取組事例や両立体験談等の役立つ情報を発信

＜コラム＞若者ケアラーへの支援

18歳になってからも支援が途切れることのないよう、新ポータルサイト「若ぽた＋」で若者ケアラーへの情報を発信します。

＜コラム＞ヤングケアラーのメンタルヘルスへの影響

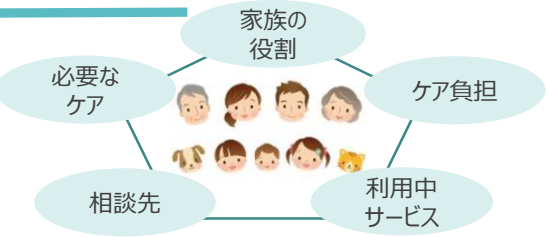
東京都医学総合研究所が実施しているコホート研究結果を基に、ヤングケアラーと非ヤングケアラーを比較分析すると、**ヤングケアラーの方がメンタルヘルスの問題が生じるリスクが高い**ことが分かった。



4 ヤングケアラーがいる家族全体のニーズに対する支援の強化

ケアを必要とする家族の支援ニーズの把握（ヤングケアラーがいる家庭の状況把握調査／子供政策連携室）新 調査を実施し、利用できるサービスを発信

- ヤングケアラーやその家族が実際に抱えている家事やケア等の生活状況、利用している介護等サービス、サービスを利用する前後のケア負担、必要としている支援等について、**多角的に状況を把握するための調査**を実施
- 調査結果を踏まえ、ヤングケアラーやその家族が利用できるサービス等を取りまとめ、整理したものを**「見える化」**し、幅広く**情報発信**



家族への支援に「ヤングケアラー支援の視点」を強化 （法定計画への反映／福祉局・保健医療局）

高齢介護

- **介護支援専門員（ケアマネジャー）**に向けて、**ヤングケアラーを含む家族介護者や、要介護者のいる世帯等を包括的に支援していくための技術の向上**等に資する**研修**を実施

- **地域包括支援センター職員等**に向けて、**多様な課題を抱える家族介護者を、様々な専門職や関係機関と連携して支援**することについて促進する**研修や情報交換会**を実施

「高齢者保健福祉計画」

保健医療

- **がん診療連携拠点病院等へヤングケアラー支援マニュアルを周知**し、関係機関との適切な連携を促進

「がん対策推進計画」

地域福祉

- ヤングケアラーへの支援を、対応が必要な**地域生活課題として位置付け**、取組を促進

「地域福祉支援計画」

障害者支援

- **ヤングケアラー・コーディネーターの人材育成**及び**区市町村への配置支援**を行い、多機関連携を強化

「障害者・障害児施策推進計画」

3か年のアクション（主要）

具体な取組	2023年度末（見込み）	年次計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
ヤングケアラー支援に向けた普及啓発	ホームページ制作・公開	ホームページを活用した普及啓発の促進・ヤングケアラー当事者の交流機会の創出		

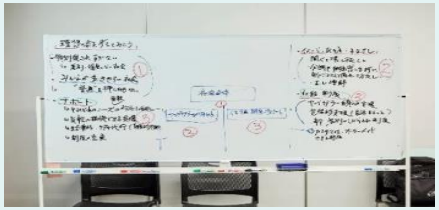
これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

ヤングケアラーの意見をいただきながら、「ヤングケアラー支援ホームページ」を制作

➢ 2023年８月12日・13日の２日間に渡り、**ヤングケアラー当事者・元ヤングケアラー11名**に**ワークショップに参加**いただき、**新たに制作するホームページ**や、その**コンテンツ**について**幅広い意見をいただきました。**

グループディスカッションを行い、一人ひとりの思いや、**社会に伝えたいこと**について話し合いました。

意見は様々あり、参加者同士の話し合いの結果、伝えたいことを**一つにまとめるのではなく、ありのままを「見て欲しい」「伝えたい」**という結論になりました。



参加者一人ひとりの意見をふせんや白板に書き出し、共有

ワークショップ参加者の意見を活かしました！

参加者意見

- 私たちの様々なケアの状況を見やすく伝えてほしい
- 実態を知って欲しい
- 意見は一つにまとめないでほしい
- ありのままの声を発信したい
- ヤングケアラーは、特別な存在でないことを知って欲しい

ヤングケアラーを理解するための独自のピクトグラム作成

ヤングケアラー私の場合、僕の場合（事例紹介）

リアルボイス（実際の意見を紹介）

ワークショップでの言葉を載せた楽曲・アニメ制作

ドキュメンタリー動画制作（メイキング）

大学での授業の様子

本人インタビュー

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

「ヤングケアラー支援ホームページ」の紹介

※2024年２月９日　ベータ版公開予定

全体コンセプト

「ヤングケアラーを考える人たち」が誰でも集える場所でありたいことをコンセプトに、**大木の下に様々な立場の人が集まる**ビジュアルをトップページに掲載しています。

ヤングケアラーについて理解する

ヤングケアラーについて視覚的にも分かりやすく伝えられるよう、**ピクトグラムや事例ページを制作**しました。

ヤングケアラーとは

↑
障害や病気のある家族の代わりに、買い物・料理・掃除・洗濯

家族の代わりに、幼いきょうだいを世話している
↓

私の場合、僕の場合

様々な事例を紹介

ヤングケアラーへの情報提供

ヤングケアラーに伝えたい**元ヤングケアラーの方からのメッセージ**の紹介や、**相談窓口**をまとめています。

20代　Nさん　女性

小学生の時に母が病気で倒れて、障害が残った母をずっとケア。私が自分がヤングケアラーだったと気付いたのは、大人になってから。学生の頃に自分がヤングケアラーだと気がついていたら、あの頃いろいろサポートを受けられたかもしれない、と思ったりします。

関係機関への情報提供

ヤングケアラー支援に関係する機関に向けて、**各関係機関等における役割**等について、ヤングケアラー支援マニュアルを用いて紹介しています。

- ✓ **支援機関の役割**
- ✓ **ヤングケアラー支援フロー**
- ✓ **ヤングケアラーと思われる子供に気付くためのチェックリスト**

当事者の声を届ける

ヤングケアラーについてより深く知ってもらうため、**ヤングケアラー当事者に協力**していただき、**特別なコンテンツ**を制作しました。

スペシャルムービー

スペシャルアニメ

ヤングケアラーのリアルボイス

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

多機関による分野横断的な取組について ～ヤングケアラーが必要な支援につながる機会を創出～

福祉分野　支援機関向け「ヤングケアラー支援マニュアル」を作成

福祉局では、地域で関係機関が緊密に連携し、ヤングケアラーに早期に気付くとともに、具体的な支援につなぐことができるよう、**「ヤングケアラー支援マニュアル」**を作成しました。

作成した支援マニュアルを基に、**関係機関向けに研修を実施**し、区市町村を支援しています。

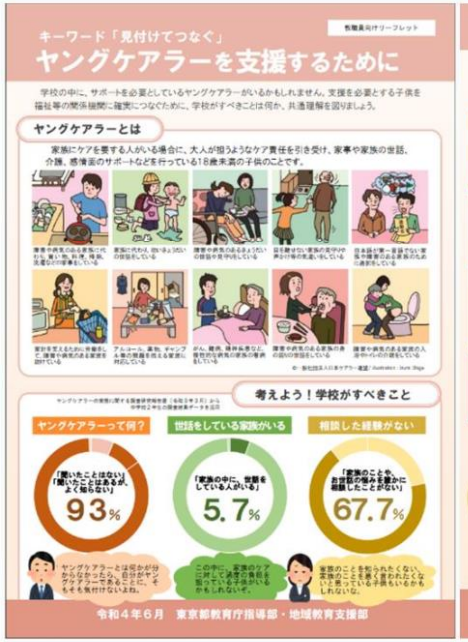
関係機関向け研修チラシ・研修の様子（市部）

町亞聖さん

区市町村への更なる支援として、元ヤングケアラーのフリーアナウンサー、町亞聖さんをナビゲーターに起用し、**支援マニュアルの研修用動画を制作**しています。

教育分野　教職員向け リーフレットを作成

教育庁では、学校が、支援を必要とする子供を福祉等の関係機関に確実につなげられるようにするため、**ヤングケアラーへの支援における学校の役割や具体的な取組等をまとめたリーフレット**を作成しました。



研修や**連絡会**等を開催し、**教職員のヤングケアラーの理解**を促進しています。

リーディングプロジェクト

日本語を母語としない子供を支援

みんなで
ともに学び、
多くの人とつながる

学校の先生や友達、
地域の人たちと一緒に学び、
分からないことや悩みを相談しながら、
自分らしく、いきいきと暮らしていける社会を目指す。

日本語を母語としない子供を支援

推進チーム 子供政策連携室・デジタルサービス局・生活文化スポーツ局・住宅政策本部・福祉局・産業労働局・教育庁

一人ひとりの実情に寄り添った多面的な支援

一人ひとりに応じた日本語教育・指導により、地域や学校への適応を支援するとともに、多くの人とつながり、心理面や生活面等にも寄り添った、きめ細かな支援を実施する

政策強化の方向

1. **日本語学習の機会を充実**
2. **日常生活に必要なスキル習得を支援**
3. **子供目線の相談体制や居場所づくりを促進**

日本語を母語としない子供が 自分らしく いきいき と活躍できる社会を目指す

学校

- ✓ **日本語指導の質の向上**
- ✓ **一人ひとりの実態に応じた日本語指導・支援**
- ✓ **日本語学級の設置**
- ✓ **就学促進の支援**

地域

- ✓ **学習・相談・交流ができる居場所の創出**
- ✓ **地域における日本語教育の体制づくりを支援**
- ✓ 困りごと等に寄り添う**相談体制の強化**

デジタル

- ✓ **仮想空間での学びの場・居場所の提供**
- ✓ **オンライン学習の促進**
- ✓ **チャット機能を活用した相談体制の構築**

- ➢ 一人ひとりに応じた**日本語教育・指導**
- ➢ **心理面や生活面等にも**寄り添った、きめ細かな支援

今後のアクション

1 日本語学習の機会を充実

日本語指導の質の向上（日本語指導ガイドラインの検討・策定／教育庁） 拡

- 日本語指導が必要な児童・生徒が、必要な日本語能力や学力等を身に付け、充実した学校生活を送ることができるようにするため、**「日本語指導ガイドライン（仮称）」**を策定し、**一人ひとりに応じた指導**を適切に行う**体制**を**構築**
- ガイドラインには、児童・生徒の**日本語能力**の**把握**や**指導・支援**の**内容・方法**のほか、**全国初**となる**小・中・高の発達段階を見据えた指導モデル**を記載
- ガイドラインを**デジタルブック化**し、**都内公立学校**での**活用**を**促進**

日本語能力測定の支援（日本語能力等アセスメント／教育庁） 新

- 児童・生徒の日本語能力等を対話を通して測定する**「対話型アセスメント」**を**小・中学校**で実施するため、都が人材育成等により、区市町村での導入を支援
- **都立高校**の生徒を対象に、**オンラインテスト**によって日本語能力を測定する**アセスメント**を**導入**

集中的な日本語学習支援 新
（春期・土曜　日本語講座／教育庁）

- 日本の高校生活へのスムーズな適応や高校の学習に必要な日本語の早期習得を図るため、日本語能力が**入門・初級レベル**の**都立高校新入生**を対象に、**春期・土曜**に集中して日本語を学習することができる日本語講座を開設

地域での日本語学習の機会を拡充（東京都地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業／生活文化スポーツ局） 新

- **子供向けの初期日本語教室の設置**など、区市町村等が行う**初期段階の日本語教育**に関する取組への**支援**を**強化**
- 地域における日本語教育の取組を一層推進するため、日本語教室設置等の**地域日本語教育の体制づくり**を検討する**区市町村**に**出向き**、**取組**を**支援**

2 日常生活に必要なスキル習得を支援

デジタルを活用した日本語学習機会の創出（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム／教育庁） 拡

- **日本語指導が必要な子供**や不登校の子供たちの**仮想空間上**での**新たな居場所・学びの場**（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）を区市町村等を通じて子供に提供
- **３D空間**の中で、**アバター**を活用した**学習・コミュニケーションの機会を創出**
- プラットフォーム上で使用可能な**日本語学習コンテンツ**等を提供

«区市の取組事例»

- プラットフォームに**外国籍の大学生ボランティア**を招き、日本語を母語としない子供との**交流**の機会を創出
- **ボイスチャット機能**や、簡単な**感情表現**が可能な**エモート機能**を使用し、**オンライン支援員**と**日本語会話の練習**

↑ アバターを介したコミュニケーション活動が可能

↑ パネルへ作品等を展示して発表会等を開催することも可能

「 バーチャル・ラーニング・プラットフォーム 」とは？

不登校の児童・生徒や、日本語指導が必要な児童・生徒を対象に、オンライン上の仮想空間で、新たな居場所や学びの場を提供する取組です。東京都教育委員会がプラットフォームを用意し、区市町村や、「学びのセーフティネット」事業（※）に提供しています。

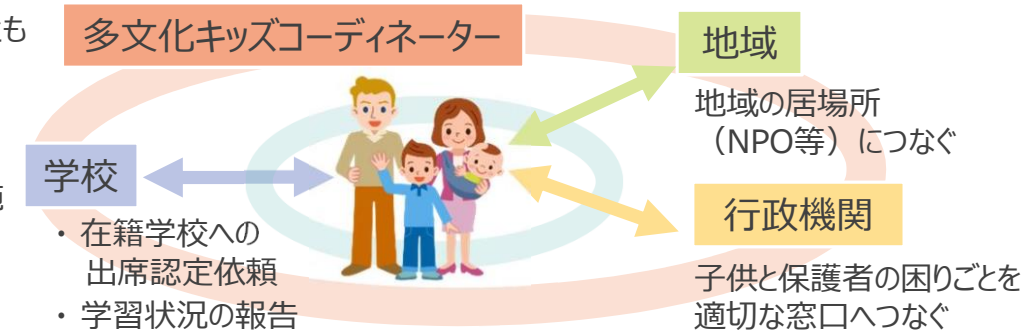
2023年度は８自治体（新宿区、墨田区、渋谷区、中野区、杉並区、八王子市、狛江市、多摩市）で、小中学生を対象に活用されました。また、都内４か所の「学びのセーフティネット」事業では、不登校の高校生等に活用されています。

※「学びのセーフティネット」事業
東京都教育委員会の委託を受けた若者支援NPOが、都内4か所の拠点で、都立高校への再入学や高校卒業資格取得のための勉強の手伝いを行う事業

3 子供目線の相談体制や居場所づくりを促進

困りごとを抱える子供への相談体制を強化（多文化キッズコーディネーター設置支援事業／生活文化スポーツ局） 拡

- 困りごとを抱える子供やその保護者に寄り添い、学校や行政・NPO等とも連携し、課題に取り組む**多文化キッズコーディネーター**を設置する区市町村を支援
- 多文化キッズコーディネーターをサポートするための**研修**や**連絡会**を実施
- 専門的な知見を有する**スーパーバイザー**を設置し、各地域の多文化キッズコーディネーターの活動を支援



子供が安心して過ごすことができる地域の居場所づくり（多文化キッズサロン設置支援事業／子供政策連携室） 拡

※いずれも実施例

相談
【例】
- 学校との調整役を配置
- 専門家による相談会
- 進路・進学相談会
- 教育、福祉等の相談員を配置
- 多文化キッズコーディネーターを配置

交流
【例】
- 遠足や見学・視察
- 先輩との交流会
- 地域との交流イベント
- 母語・母国文化に触れるイベント

区市町村
地域の実情に合わせて設置・運営

学習
【例】
- 日本語教室の設置（対面・オンライン）
- 教科学習支援
- 就学促進支援
- 高校入試対策

多文化キッズサロン

その他の付加機能
【例】
- 遊び場の設置
- 子供食堂の設置
- 生活ルール講座の開催

- **日本語を母語としない子供**が**集い、交流**する**地域の居場所**として、**「学習」「相談」「交流」**等の機能を一体的に備えた**多文化キッズサロン**を都内に広めるため、区市町村を**伴走支援**するなど**一層の設置を後押し**

東京都

区市町村の**実情**を踏まえながら、**オーダーメイド型**の**多文化キッズサロン**設置に向けて、**伴走支援**を実施

3 子供目線の相談体制や居場所づくりを促進

気軽に相談できるプラットフォームを活用した相談体制の強化（子供・子育てメンター“Comforting Chat”／子供政策連携室）

- 「子育てのつながり創出」の子供・子育てメンター“ギュッとチャット”（詳細はP.88参照）において、日本語を母語としない子供やその保護者からの日常的な相談に対応できるよう、**2025年度**から**多言語対応をスタート**
- SNS等を通じて、**多様な相談相手**＊が、**継続的**に**傾聴・共感**し、日本語を母語としない子供やその保護者の**不安や悩みの深刻化を予防**

＊多様な相談相手のイメージ：心理士、保健師等の専門職
大学生、相談対応経験の豊富な人 等

～ 日本語を母語としない子供の不安や悩みの深刻化を予防～

3か年のアクション（主要）

具体な取組	2023年度末（見込み）	年次計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
日本語指導ガイドラインの検討・策定	検討・策定	デジタルブック化	活用促進	
東京都地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業	10団体で実施	順次拡大		
多文化キッズコーディネーター設置支援事業	2自治体で設置	順次拡大 研修・連絡会・スーパーバイザーによるサポート		
多文化キッズサロン設置支援事業	2自治体で設置	順次拡大		継続運営

区市町村での日本語教育につなぐ取組　好事例

- **日本語指導が必要な子供**に、**日本語教育の機会**を**確実に提供**するため、**各区市町村**では関係機関が緊密に連携・協力した様々な取組を独自に実施
- 今後、「**子供を日本語教育につなぐ取組**」の**好事例**をとりまとめ、都内の**区市町村間で共有**

来日した子供を日本語教育につなぐ

○ 来日した家族が**住民登録**に来た際、学齢期の子供がいる場合は、**窓口**から**教育委員会学務課**へ**連絡**。

転入予定の学校へ連絡後、日本語指導支援機関及び転入予定の学校の**校長**が当該子供と**面談**。

校長が日本語指導が必要と**判断**した場合に、日本語指導支援機関での**日本語教育支援**につなぐ

○ 教育委員会学務課での**転入手続の内容**も踏まえ、転入予定の学校の**校長**が、**アセスメント・面談**を実施した上で、**一人ひとりの子供**の**日本語能力**に**応じて**、以下のとおり実施

- **教育センター**の**教科学習支援**につなぐ
- 教育委員会へ**日本語指導員**の**派遣**を**依頼**

○ 児童が入学した際、**学校長**が、日本語指導が必要と**判断**した場合、**教育委員会**に**確認**の上、**外部団体**に**日本語学習支援**を依頼。

学校は**当団体**と**相談**の上、**対象児童の状況に応じた日本語指導の計画**を作成して教育委員会に提出し、**当団体での日本語学習支援**につなぐ

○ 公立幼稚園・小中学校での**生活**や、自治体の**日本語サポート制度**を紹介する**多言語冊子**を作成し、**公開**

就学不明者を日本語教育につなぐ

○ **就学不明者**に対し、**多言語通知**を送付し、就学促進を図る

○ 通知が届かない、又は返信がない場合、**入国管理局で出国していないことを確認**したときは、**個別訪問**を実施し、確実に把握

未就学児を日本語教育につなぐ

○ 教育委員会が委託する**「日本語サポート指導員」**が**当該幼稚園**において、対象園児に**母語を使って日本語初期指導**を実施

○ 教育委員会が実施する**「入学前にほんご広場」**において「日本語サポーター」が未就学児を指導

小学校から中学校へ進学する子供を日本語教育につなぐ

○ **小学校**から、**入学予定の中学校**に連絡し、当該児童の**日本語習得の状況**を伝え、中学校での日本語指導につなぐ

中学校から高校へ進学する子供を日本語教育につなぐ

○ **中学校**から、**入学予定の高校**に連絡し、当該生徒の**日本語習得の状況**を伝え、高校での日本語指導につなぐ

これまでのアクション・ 子供の意見

目黒区

子供の意見

- 質問したくても、**間違った日本語**を**聞かれるのが怖く**てできない
- 日本語で、自分の伝えたいことが伝えられない
- 計算問題が**日本語**で出されると、**分からなくて解けない**
- 同年代や同じ背景の友達を増やしたい
- コミュニケーションがうまく取れないと思い、**友達に話しかけることができない**

区の問題意識

- 区内の小中学校では、国際学級や日本語教室の設置、日本語指導講師の派遣が進められている
- **学校の外**にも、**放課後**に子供たちが安心感を得られる**居場所**として、**日本語習得**や**教科学習**の**支援**の場、**生活習慣**を学ぶ場、**同じ背景を持つ子供同士がつながる**場を増やしていく必要がある
- 特に大きな課題は、**高校受験**を控える生徒たち。高校進学は、子供の将来を左右する大きな壁

子供の居場所「多文化キッズサロン」を設置

MIFA放課後にほんごクラブ

← 1対1で日本語学習を支援

↑ かるた遊びで日本語に親しみながら、子供同士の交流を深める

学習

- 子供と**1対1**又は**少人数**での**日本語教室**
- 対面のほか、**オンラインでの学習が可能**
- オンライン学習・ICT学習のための**タブレット端末貸出**
- **生活に必要な日本語**の学習
- 学校の**授業の復習**や、**宿題**のサポート
- **高校受験対策**の支援

相談

- **日本語教室に来た子供**の相談対応
- **日本語教室に通う子供の保護者**の相談対応
- **メール**や**電話**による相談対応

交流

- **地域の大学生**や**高校生**との**交流**
- 日本語教室に参加する**子供同士のフリートーク**
- ニュースや最近の出来事について**ディスカッション**

各種団体と連携して困りごとを解決する「多文化キッズコーディネーター」を配置

- **対面**、**メール**、**電話**で相談対応
- 「MIFA放課後にほんごクラブ」に参加する子供が在籍する**小学校・中学校との情報共有**

← 利用案内チラシは、日本語・英語・中国語の3種類を用意（写真は日本語）

これまでのアクション・ 子供の意見

中野区

子供の意見

日本語を勉強できる場所を知りたい

進学について**相談**したい

もっと勉強したいけど、どうしたらいいか**分からない**

区の問題意識

- 区内の**在住外国人増加**に伴い、**困りごと**も**多様化**
- 子供たちの日本語学習を通じて**学校や生活での悩み**を察知・把握し、**必要な支援**に**適時適切**に**つなげる**必要がある

「多文化キッズコーディネーター」を配置

- 子供の**日本語能力**や**学習状況**を**把握**し、日本語学習が必要な子供を**日本語教室**へつなぐ
- 日本語を母語としない子供が集まることのできる**居場所**や、**日本語教室**、**学習支援サービス**等に関する**情報**を**提供**
- 来日した子供への**高校進学相談**や、**保護者**からの**相談**への**対応**（生活相談・進学相談）
- 子供が通う**日本語教室**と、子供が在籍する**小・中学校**とが**情報**を**共有**するための**橋渡し**
- **日本語指導者・通訳者**の**学校**への**派遣**
- 日本語指導者・通訳者にヒアリングを行い、**支援に関する困りごと**がある場合、**専門家のアドバイス**を受けることができるよう**サポート**

八王子市

子供の意見

日本語が分からないので、勉強が分かりにくい

テストの問題の意味が分からなくても、**意味を聞くことができない**

市の問題意識

- よく相談されるのは、**友だち**との関係、**家族**との関係、**進学**のこと、**学校・役所の手続**
- 日本語を母語としない子供が、**学校**や**勉強**等について、いつでも気軽に**相談**できる**場所づくり**が必要

「多文化キッズサロン」を設置

多文化キッズサロン八王子

学習
- 子供と**１対１の日本語教室**
- **生活に必要な日本語**の学習支援
- **高校受験対策**の支援
- 学校の**授業の復習**や**宿題**のサポート
- **学校入学前**や**不登校の子供を対象**に日本語学習を支援

相談
- **福祉や心理の専門家**による**相談会**を実施
- **進路・進学ガイダンスを実施**

交流
- **子供向けワークショップ**を開催し、地域との交流を支援

↑ 一人ひとりに合わせ、１対１で日本語学習を支援

日本語講師は → それぞれの子供に合った教材を使用

リーディングプロジェクト

ユースヘルスケア

からだや体調のこと、もう一人で悩まない

ユースが直面する
思春期の「どうしよう」「困った」を解消し、
「今」と「未来」の健康管理をサポート

ユースヘルスケア

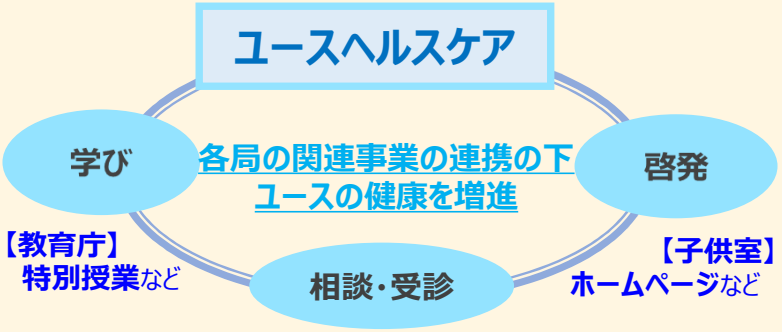
推進チーム 子供政策連携室・デジタルサービス局・生活文化スポーツ局・福祉局・保健医療局・産業労働局・教育庁

思春期特有の健康上の悩みを解消し、ユースの健康を増進

○ 思春期は、心身の様々な変化に直面するとともに、不安や悩みを抱え込みやすい時期
○ こうした時期にある10代の子供・若者（ユース）に対し、適切な健康管理の基礎を培いながら、将来を見据えた健康増進の取組を支援

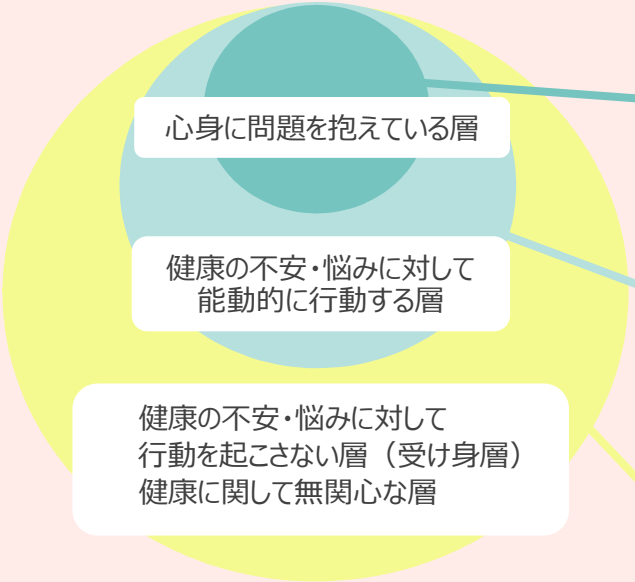
ユースが自ら適切に健康管理を行うための包括的サポート【４つの柱】

柱１ 知識の定着に向けた学びの機会の活用
柱２ 健康管理情報の更なる啓発
柱３ 相談支援体制の機能強化
柱４ 受診促進に向けた仕組みの構築



【福祉局】とうきょう若者ヘルスサポート（わかさぽ）
【教育庁】産婦人科学校医による専門相談

「問題を抱えている層」から「無関心層」まであらゆる層のユースをサポート



健康上の問題解消に向けて早期に対処
○相談支援
（わかさぽ、産婦人科学校医による専門相談）
○医療機関等受診の同行支援（わかさぽ）

心身の健康への不安・悩みの解消をサポート
○ホームページ
「TOKYO YOUTH HEALTHCARE」
○相談窓口の利用促進（わかさぽ）

自身の健康に関心を持ち、将来も見据えた適切な健康管理を行うための普及啓発
○産婦人科医による特別授業
○ホームページ
「TOKYO YOUTH HEALTHCARE」

政策強化の方向

1. ユースの声を踏まえた情報発信等の強化
2. ユース目線に立った相談環境の整備を推進

今後のアクション

1 ユースの声を踏まえた情報発信等の強化

支援体制や情報コンテンツの充実（子供政策連携室、福祉局、教育庁） 拡

- **相談事例**を**専門家の知見を活用**し継続的に**分析**
- 分析結果に基づき**支援体制**や**情報コンテンツ**を**充実**

相談・アンケート回答

10代のユース世代

ユースに発信

【データ収集】
相談事業の事例や
アンケートなどのデータを収集

わかさぽ【福祉局】
都立学校【教育庁】
HPユーザーアンケート【子供室】

【専門家等によるデータ分析】
専門家等の検討体制を構築し、収集データを分析

- ✓ 相談内容の傾向などから**ユースに足りていない、届けるべき情報を分析**
- ✓ **効果的な発信を検討、提言**

【発信】
記事コンテンツに反映

TOKYO YOUTH HEALTHCARE

動画制作などの
広報施策にも活用

「ユースヘルスケア」の普及啓発（子供政策連携室） 新 拡

- **普及啓発動画の制作・配信**
  「**『ユースヘルスケア』とは何か、なぜ必要か」の理解**を広め、全てのユースに浸透させる
- ホームページ「TOKYO YOUTH HEALTHCARE」の**プッシュ型広報を強化**し、健康管理情報へのアクセシビリティを向上
- ユースの声や、ユースを取り巻く社会課題を踏まえ、**ホームページの機能を改修**

TOKYO YOUTH HEALTHCARE

1 ユースの声を踏まえた情報発信等の強化

都立高校等での普及啓発（教育庁） 拡

- 産婦人科学校医による、生徒・保護者等向け講演会実施校の拡大

社会気運の醸成（産業労働局）

- フェムテックに関する新製品の開発・改良・普及に係る経費を助成
- 「働く女性のウェルネス向上委員会」ホームページで企業の取組事例の発信（女性の健康課題への理解促進やフェムテックの活用等）

女性特有の健康課題を知る、学ぶ！
働く女性のウェルネス向上委員会

区市町村の取組の支援（福祉局、教育庁）

- 思春期の婦人科疾患などに関する相談支援等を行う区市町村の補助を実施
- 助産師による講演会を実施するなど、学校の取組を支援

特別授業の充実（教育庁）

【知識の定着に向けた学びの機会の活用】

- 産婦人科医と連携し、ライフプランと健康についての授業を実施
- 健康への理解を深めるためのリーフレットを改訂し、全都立高校へ配布
- 教員の指導力向上を図るため、外部研修会への参加を支援
- 取組拡大に向け、都立高校の好事例を都内の公立・私立高校に共有

性暴力・性被害についての普及啓発（子供政策連携室） 新

何が「性暴力」かが分からず、自分が**「性被害」に遭っていると認識できない**ことが**「子供の性被害」の特徴**の一つ

～性暴力・性被害とは何か～ 分かりやすい**啓発動画を新たに制作・発信**

■ 伝える内容（ポイント）

- ✓ 同意のない性的行為は性暴力にあたる
- ✓ いやなときははっきり断る　離れる 逃げる

- ✓ 身体的暴力だけが性暴力ではない
- ✓ 性別にかかわらず被害に遭うことがある

- ✓ 被害に遭ったときは、信頼できる大人や行政等の窓口に相談する

■ ユースへ伝えるための工夫

- 性別にかかわらず自分事として捉えられるよう**アニメーションを活用**
- **ターゲットを細分化**することにより、啓発効果の増大を図る
  - 10代前半：平易な言葉で表現し、理解を深める
    「いやなときはガマンしないでいやと言おう」など
  - 10代後半：事例を示しながら、自分事としての認識を高める
- **専門家による監修**を行い、情報の**正確性・安全性を担保**
- ユースに効果的に届くよう、**SNS等を活用**して発信

2 ユース目線に立った相談環境の整備を推進

「とうきょう若者ヘルスサポート（わかさぽ）」相談環境の整備を推進（福祉局） 拡

- **対面相談の拡充**
  - 渋谷駅近くに固定の対面相談会場を開設し、相談しやすい環境を整備
  - 多摩会場でも実施回数を拡大
- **電話相談、メール相談**の対応日時を**拡大**

（固定相談窓口の様子）

- **医療機関等への同行支援**
  予期せぬ妊娠への不安を抱える10代を含めた若者に対し、緊急避妊を含む相談・医療機関等への**同行支援**を**実施**
- **広報動画の配信**
  対象者である中学生以上の10代に対して、どのような悩みが相談できるか、例示を入れることで、より気軽に相談できるよう窓口をPR

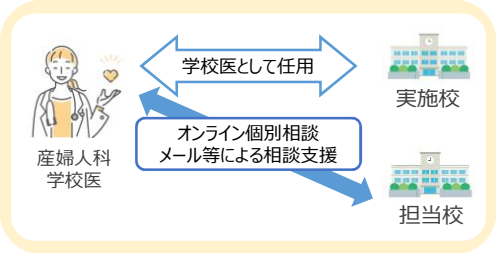
※動画広告：約490万回表示（2023年12月末時点）

都立高校等における産婦人科医を活用したユースヘルスケア事業（教育庁） 新 拡

- **産婦人科学校医による専門相談実施校の拡大**
  都立学校15校から18校へ

- **産婦人科学校医の受け持ち校を拡大（複数校方式の導入）**

【複数校方式とは】
オンラインによる相談体制を拡充し、産婦人科学校医が配置されている学校とは別の学校の生徒等からの相談に対応



- **産婦人科学校医の配置が困難な地域**における**相談体制**の**構築**
  多摩・島しょ地域における個別相談・講演会を**オンライン**で実施
- 相談者の状況に応じ、**適切な医療機関の受診を助言**

3か年のアクション（主要）

具体的な取組	2023年度末（見込み）	年次計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
わかさぽ	対面相談の固定窓口開設、電話窓口拡大、広報動画作成	窓口拡大・広告配信	対面相談の固定窓口の環境改善、拡大検討	
都立高校等	産婦人科学校医による専門相談実施校を15校に拡大	実施校の拡大	実施校拡大の検討	

これまでのアクション・ユースの意見反映の取組

TOKYO YOUTH HEALTHCARE

思春期に知っておきたいヘルスケア情報をユース目線で発信

- **ユースの意見**を取り入れ、**ユース目線のデザイン・レイアウト**で構成
- ターゲット層に応じた**３種類の記事コンテンツ**や、東京都のユース向け**相談窓口**検索ページ、**診療科の解説**ページを掲載
- **記事コンテンツ**では、**緊急避妊薬**や**摂食障害**、**性の多様性**など、**ユースの健康を取り巻く課題**や**ユースの悩み・関心**に沿ったテーマの記事を配信
- **医師等の専門家の監修**により、情報の**正確性・安全性**も担保
- ベータ版以降、約5.6万ページビュー（2023年12月末時点）

SOS

悩みや不安を抱えるユースに向け、**その対処に役立つ情報**を具体的に、わかりやすく提供

Story

ヘルスケアへの関心が低いユースに向け、**キャラクターによる会話形式**で、**予防**を兼ねた**知識**を啓発

Interview

訴求力のある著名人のリアルな言葉を通じて、ユースが**ヘルスケアの重要性に気付くきっかけ**を提示

ユースの健康を多角的にサポートする９つのカテゴリーの記事を掲載

- 緊急避妊薬の一部薬局での試験販売等、**今日的課題**に対し、**時機に応じて記事をアップデート**
- **各局連携**の下、ヘルスケアに関する**ユースの情報収集・知識習得をサポート**

からだのこと
生理、HPVワクチン、プレコンセプションケア　など

栄養のこと
摂食障害、栄養バランス　など

恋愛のこと
対等な関係、デートDV　など

性のこと
緊急避妊薬、性感染症、性の多様性　など

こころのこと
思春期のこころのモヤモヤ、うつ　など

暴力のこと
性暴力、いじめ　など

酒と薬物のこと
飲酒・喫煙、市販薬　など

ケガのこと
スポーツ外傷　など

その他
人間関係、SNS　など

URL https://www.youth-healthcare.metro.tokyo.lg.jp/ ／「東京都　ユースヘルスケア」で検索 ／ 二次元コードからもアクセスできます

これまでのアクション・ユースの意見反映の取組

2023年７月　ベータ版公開

- ティーンズアクション2023（７月～11月）
- ホームページの機能を活用したアンケート（７月～９月）
- 都立高校での出前授業（９月）

【ユースから寄せられた主な意見】

<ホームページ全体について>

- もっと**情報を見つけやすく**してほしい
- **他のユーザーと共感**できる機能があるとよい

<コンテンツについて>

- 記事は文字だけだと単調なので、**イラストが多い方がよい**
- 自分たちと**近い年齢の芸能人**のインタビューが読みたい

<広報について>

- 普段からよく見る**YouTubeやSNSの広告が効果的**だと思う
- **学校で紹介**してもらうと**安心**できる

など

2023年10月　正式版公開

- **性感染症**や**HPVワクチン**、思春期の**うつ**等の**記事の追加**
- ユースの意見を踏まえた**機能改修**

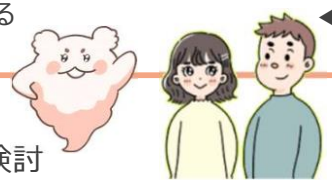
ベータ版

ファーストビューでは「SOS」しか見えず、記事コンテンツの全貌が分からなかった。
スクロールしないと、各記事ページにたどり着けなかった。

正式版

トップページを改修し、「SOS」「Story」「Interview」の３種類の記事コンテンツのボタンを表示。**ワンクリックで各記事ページに到達**可能に。

ユースの“曖昧模糊”なことに答える案内人キャラクター「モコフカ」 ▶



◀ ユーザーと一緒にヘルスケアを学ぶアカリとヒロト

2024年度の取組

- **ユーザビリティ**を高めるホームページ改修　・・・　記事への**リアクション**、**ブックマーク**等の機能開発の検討
- より**アイキャッチ**で**親しみやすいコンテンツ**制作　・・・　**キャラクター**等の**イラストを多用**した記事や、**著名人のインタビュー**記事の拡充
- **ユースの視点**を取り入れた、**伝わる広報**の展開　・・・　**SNS等への広告配信**や、特別授業・出前授業等の機会をとらえた**学校での周知**

これまでのアクション・ユースの意見反映の取組

ワークショップ

- ベータ版の作成段階から正式版公開後までの間に計３回**ワークショップを開催**しました。
- **ベータ版作成段階**では、ユースの**心の拠り所**となるような、ホームページの**ステートメントを考案**しました。
- **正式版公開後**には、**複数の記事を読んでもらう**仕掛けとして、記事に付ける**「＃タグ」に入れる言葉を検討**しました。また、どんな機能があったらもっと見やすくなるか、今後に向けた**更なる改善点**についても意見を聴きました。
- ワークショップに参加したメンバーからは、**「自分たちの意見が東京都の事業に役立っているのが嬉しい」「ユースの意見をもとにしてできたホームページだから頼りになる」**といった感想をいただきました。

ベータ版作成段階　～ステートメントの考案～

ホームページのステートメント（ユーザーへのメッセージ）にユースの声やアイデアを盛り込みました。

悩みに大きい、小さいはありません。

困ってしまった時、役に立てるかもしれないから
このサイトのこと、覚えていてください。

扉は、大きく開いています。

大切なのは、これからずっと続く
あなたの未来です。

【ワークショップに参加したメンバーの声】

- **どんなユースにも寄り添うホームページだと伝わる文にしたい**
  - ひとりひとりに寄り添う気持ちを込めて、**ユーザーへの呼びかけは「みなさん」ではなく「あなた」**にしよう
- **１画面に収まるようにしたい。でも自分と向き合いながら読めるように余白も残したい**
  - **文字数はコンパクト**にしつつ、**行間を大きく**取って余白を作ろう

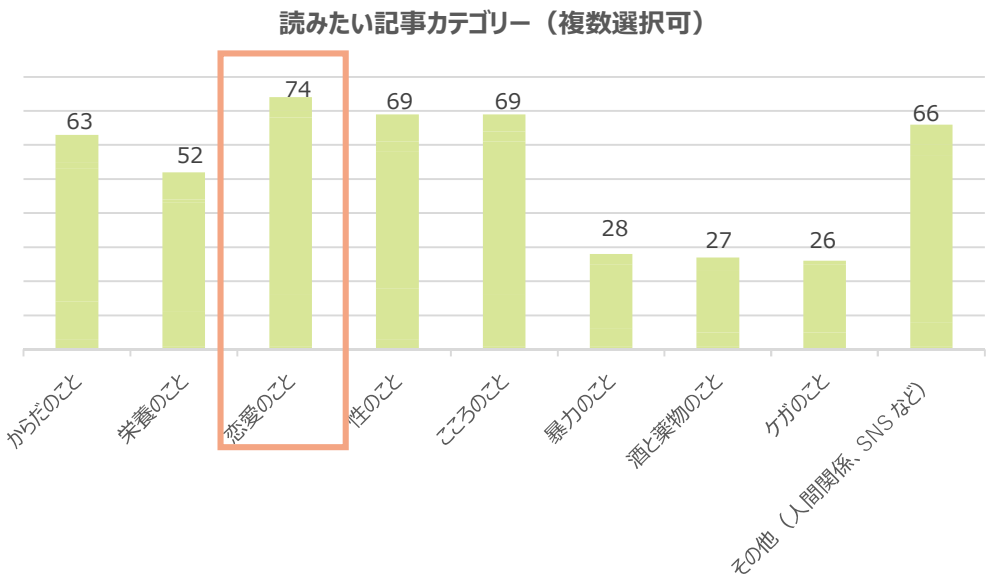
出前授業～都立多摩高等学校～

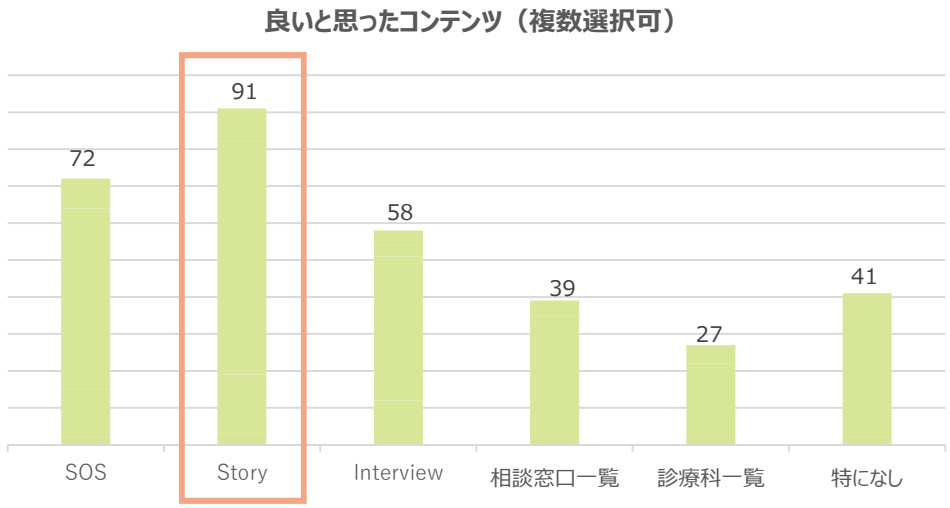
- 2023年９月に、都立多摩高校で**「中高生に伝わるユースヘルスケア情報の発信」**をテーマに出前授業を行い、３年生の皆さんから意見を聴きました。
- 自分たちが普段どのように情報収集するかを振り返りながら、**10代に効果的な広報手法**をグループで検討しました。生徒の皆さんからは、**「チラシのように実物があると絶対に目に入る」「好きなタレントやキャラクターが出ている広告だと、見てみようと思う」**といった意見が挙がりました。
- 先生からは、**「どのクラスも積極的に意見が交わされ、多様な生徒の意見を聞くことができました」「生徒の表現力や協働性を育む機会になりました」**といった講評をいただきました。

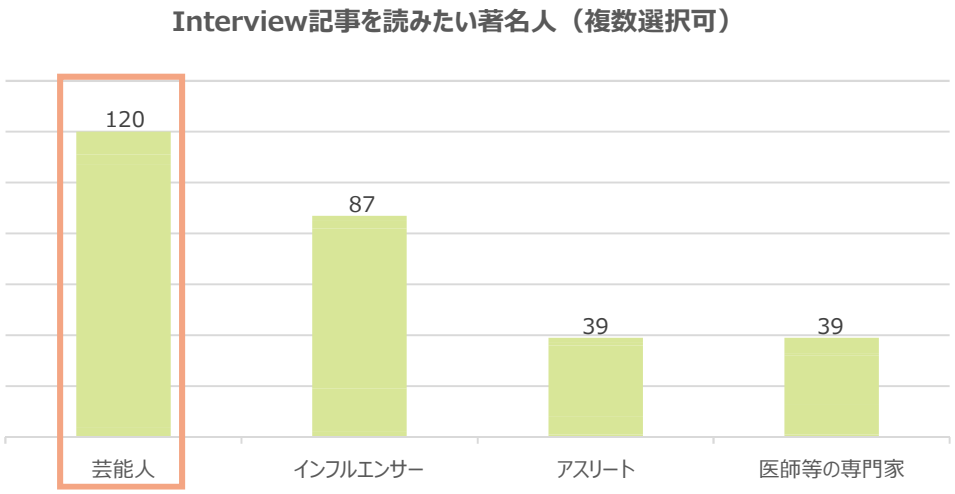
これまでのアクション・ユースの意見反映の取組

ユーザーアンケート（一部抜粋）

- **ベータ版公開時**（2023年７月～９月）に実施した**ユーザーアンケート**では、**約200件**の回答をいただきました。
- **「読みたい記事カテゴリー」**の中では、ホームページに掲載している９つのカテゴリーのうち**「恋愛のこと」**の得票を多くいただきました。 **アンケート結果を踏まえ**、12月には交際相手との**「対等な関係」**や**「デートDV」**をテーマにした記事を**新たに配信**しました。
- **「良いと思ったコンテンツ」**の中では、**オリジナルキャラクターとの会話形式**で読み進める**「Story」**の記事が人気でした。**キャラクターを広告ツールに使用**するほか、「Story」記事を厚く配信しています。
- **「Interview記事を読みたい著名人」**では、**芸能人**のニーズが多くありました。
- 今後もユーザーアンケートを継続し、ホームページ運営に活用していきます。







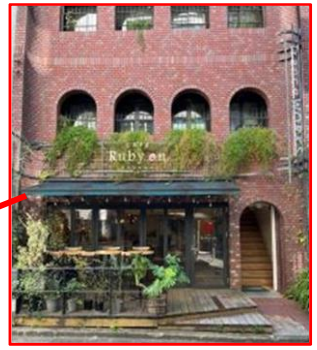
これまでのアクション・ユースの意見反映の取組

とうきょう若者（わかもの）ヘルスサポート

中学生以上の10代の若者を対象とした**思春期特有の健康に関する悩み（性に関することを含む）**に対し、
看護師等の専門職が対応する**相談窓口（電話、メール、対面）**を運営

事項	内容
電話相談	週２日（水曜 15～20時／日曜 ９～14時）、３回線で受付
メール相談	常時受付（回答は水曜 15～20時・日曜 ９～14時）
対面相談	2023年10月まで　月２回のキャラバン方式（区部・多摩地域で実施）、著名人の講演イベントの実施（３回） **2023年11月**から　渋谷駅近くに**固定窓口設置（週３日）、医療機関等への同行支援**開始 著名人の講演イベントの実施 多摩地域でもキャラバン方式の相談継続

【区部固定相談窓口】
渋谷BLDG
東京都渋谷区渋谷二丁目2-17
TranceWORKS青山ビル



【相談内容】
男性器、自慰行為、性交、メンタル不調、性自認、性感染症、
月経不順、月経痛、妊娠、皮膚トラブル、体形、食生活　など

【相談件数】
2023年４月から12月末まで：　2,169 件

〈利用者の声〉
✓ 親切・丁寧に対応してくれて、安心して相談できた
✓ 自分だけの悩みではなかったことが分かり、気持ちが軽くなった

リーディングプロジェクト

学齢期の子育ち

自分らしく ありのままで

子供一人ひとりが
自分らしくありのままでいられる
学校外の多様な学び・居場所づくりをサポートし、
学校生活になじめない子供も、
個性や特長を伸ばして成長できる社会をつくっていく。

学齢期の子育ち

推進チーム　子供政策連携室・生活文化スポーツ局・福祉局・教育庁

学校生活に馴染めず生きづらさを抱える子供が自分らしくありのままで成長できるよう、「学校」及び「学校外」からのアプローチを車の両輪として、学び・居場所の多様な選択肢を創出

目指すべき未来

学校教育の更なる充実

在籍校との連携

学校外の学び・居場所の創出

学校生活に馴染めず生きづらさを抱える子供の学び・居場所の選択肢を多様化

「学校外の学び・居場所の創出」に向けた政策パッケージの全体像

①利用者等支援　②フリースクール等支援

③多様な学びの調査研究

学校外の多様な学び・居場所を創出するため、子供の学び・成長を後押しする観点から、新たに３つの取組を実施

※「学齢期の子育ち」に関する推進チーム・・・「学校外の多様な学び・居場所」を中心とした政策の企画立案を目的に組成

政策強化の方向

1. フリースクール等の利用者等に対する支援を開始
2. 子供の活動支援の充実等を目的とするフリースクール等に対する支援を開始
3. 学校外の多様な学びの調査研究に着手

今後のアクション

1 フリースクール等の利用者等に対する支援を開始

フリースクール等利用者の経済的負担を軽減（子供政策連携室、生活文化スポーツ局）新

- 義務教育段階の子供が不登校の状態を理由としてフリースクール等に通う場合に、その利用料に対する助成制度を創設

保護者の抱える不安・悩みに対するサポート（子供政策連携室、生活文化スポーツ局）新

- 保護者を対象とした勉強会や、保護者同士の交流会等を開催
  【実施イメージ】不登校（傾向）の子供への接し方等に関する専門家による勉強会、フリースクール通所経験者による講演会　など

2 子供の活動支援の充実等を目的とするフリースクール等に対する支援を開始

一人ひとりの実情を踏まえながら、**心の回復をサポートし、社会で自立する力**を育成していくため、**スクールに求める機能をベースに子供目線に立った支援**を展開

フリースクール等に求める子供を育むための機能

- 心のケア
- 社会とのつながり
- 多様な学び

子供を育むための機能をベースとしたフリースクール等支援を展開（子供政策連携室、生活文化スポーツ局）新

- 子供一人ひとりの「サポートプラン」の作成など、子供目線に立った取組を行うフリースクール等に対する補助制度を創設するなど支援を開始

具体的な支援メニュー

子供の活動支援	✓「サポートプラン」作成・実践に対する支援 ✓活動の安全性向上に資する経費の支援 ✓体験活動の充実等に必要な経費の支援 ✓心のケアや活動の充実に資する専門家の派遣
スタッフの資質向上	フリースクール等のスタッフ向けの研修開催、子供の支援の充実に向けた資格取得経費の支援 など

3 学校外の多様な学びの調査研究に着手

子供の興味・関心を引き出し、知的好奇心を最大化するメソッドについて調査研究（子供政策連携室） 新

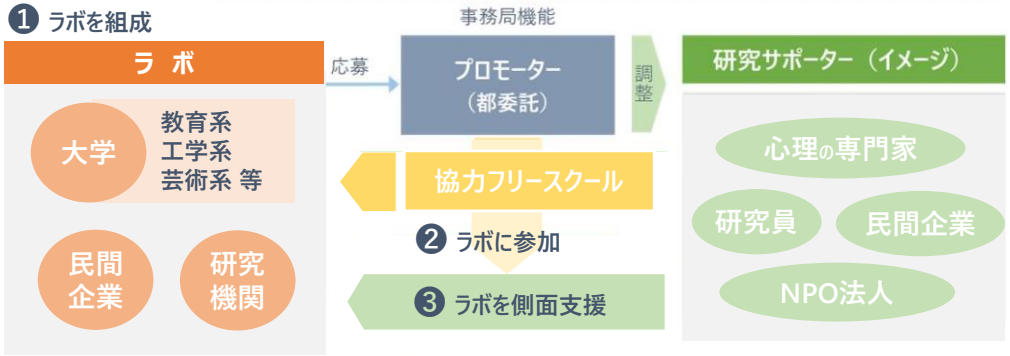
➢ 子供の興味・関心を出発点とした、一人ひとりの特長・特性を伸ばす学びの実施手法等について、大学等の専門機関と連携した調査研究を実施

調査研究スキーム

① 様々なリソースを有する大学や企業などにより調査研究を行う「ラボ」を組成

② 協力フリースクール等に通う子供のニーズを踏まえ、「ラボ」のテーマを設定し、子供が「ラボ」で行う活動に参加

③ 調査研究にあたっては、様々な分野の専門家である「研究サポーター」がラボを側面支援



メソッド研究のSTEP

1	子供のニーズに応じて学びのテーマを設定
2	テーマの中で何に興味があるかを引き出す
3	興味を掘り下げ、学びたいものにつなげる
4	一人ひとりのニーズに応じた学びの企画・実践
5	実践した学びを通じた子供の変化を把握

ラボにおけるメソッド研究のイメージ

一人ひとりの特長・特性に応じたツールを効果的に活用し、子供の学びをサポート

３か年のアクション（主要）

具体な取組	2023年度末（見込み）	年次計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
フリースクール等の利用者等に対する支援	―	支援を開始	→	→
フリースクール等に対する支援	―	支援を開始	→	→
学校外の多様な学びの調査研究	―	研究に着手	→	施策へ反映

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

「学校外の多様な学び・居場所の創出」に向けた政策立案のため、様々な取組を実施しました！

第９回こども未来会議　学校外の多様な学び・居場所の創出に向けてキックオフ

テーマ　ありのままの多様な子供を育む学び、居場所のあり方　　2023年６月26日開催

※要旨・抜粋

委員からの意見

- ✓ 誰一人取り残さないということを考えれば、この不登校の支援については、本当に急がなければならない。子育て支援の側面では、**不登校になったときに仕事が続けられないなど、保護者のための支援というのも必要**であると感じた
- ✓ ありのままの子供を大切にする社会を目指していかないといけない。**才能を発揮するということを受け取ってくれる場所、そういう社会に認められるという側面と、子供がほっとできるという両義的な居場所が大事**だと感じた
- ✓ 学校外の学びの場に対して、行政としてどのような支援ができるのか、**既存の枠組みにとらわれることなく、幅広い視点で**検討を行うべきである

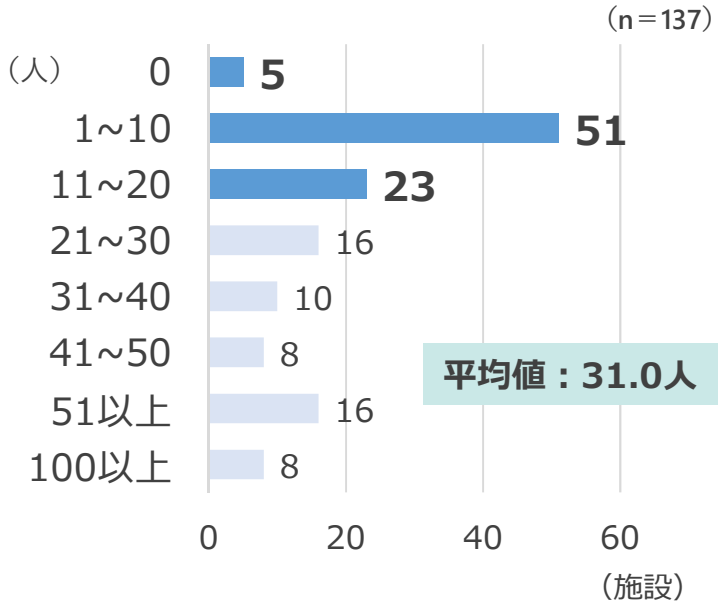
これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

ヒアリング調査等　都内フリースクール等への**アウトリーチ型ヒアリング等を通じて把握した現場の声や実情**

都内フリースクール実態調査

■**対象**　都内でフリースクール等を開所している施設　■**回答数**　141施設

在籍児童生徒数の分布



1スクール当たりの平均人数は30人程度だが、20人以下のスクールが半数以上

平均在籍スタッフ数

（下段はn値）

区分	常勤	非常勤
有給	3.8人 （ 130 ）	10.5人 （ 124 ）
無給	0.4人 （ 108 ）	1.7人 （ 114 ）

- ✓ 非常勤スタッフや無給スタッフに支えられ運営
- ✓ 常勤スタッフ１名で運営している施設が約１割存在

【ヒアリングでの声】
スタッフは子供への対応を優先しており、スクール運営に係る事務作業まで手が回らないといった声

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

有資格スタッフの在籍率

✓ 多くのスクールに教員免許保有者が在籍
✓ 一方、心理や福祉の有資格者は３割程度

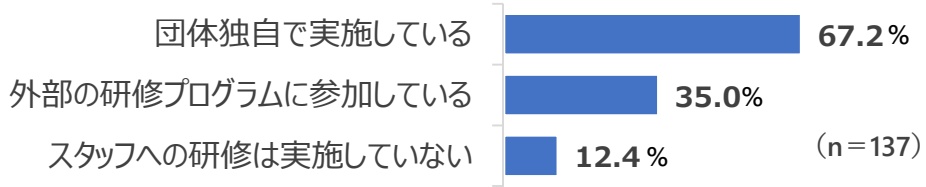
教員免許	67.7%（99）	（右はｎ値）
心理系資格※１	35.8%（95）	
福祉系資格※２	29.7%（91）	

※１ 臨床心理士、公認心理師等
※２ 社会福祉士、精神保健福祉士等

【ヒアリングでの声】
心理や福祉に関する専門家派遣や研修を望む多数の声

スタッフ向け研修の実施状況

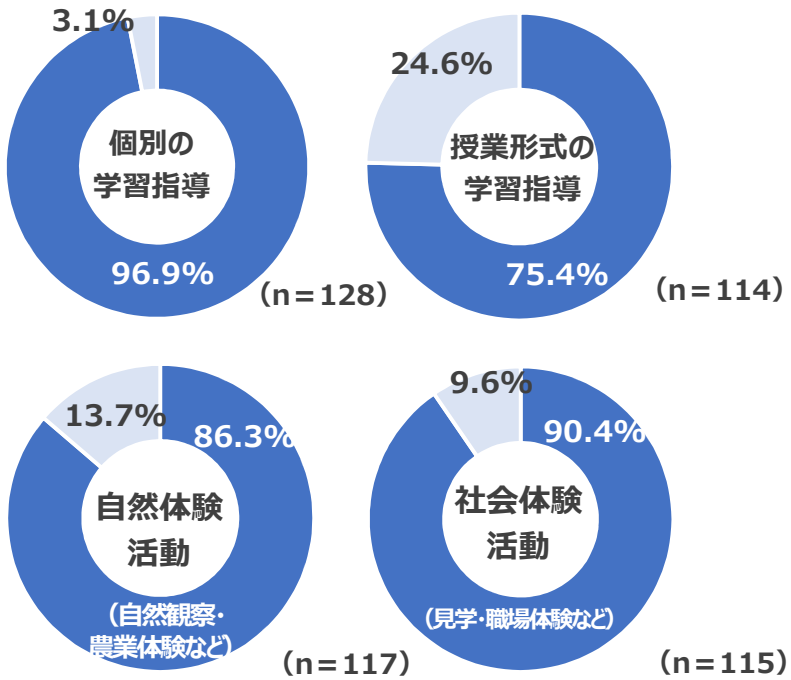
✓ 多くのスクールがスタッフ向けに研修を実施
✓ 約３割のスクールは、外部プログラムにも参加



【ヒアリングでの声】
- 受講する外部プログラムは、発達特性に関するものが多数
- 外部研修のニーズは高いものの、多数のスクールが費用面から受講を断念

学習・体験活動の実施状況

✓ 学習は、授業形式より、個別での指導が多い
✓ 各種体験活動は、約９割のスクールで実施



【ヒアリングでの声】
子供がより興味を持つプログラムの充実のため、ゲスト講師の派遣や専門家のアドバイスを望む声

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

先進事例調査 調査の一環として**台湾へ渡航**し、**種子実験小学校**をはじめとした**多様な学びの場**を現地視察

種子実験小学校

✓ 生徒は自分で授業を選択、時間割を作成
（空き時間も含め自ら考える）

✓ カリキュラムは先生が一から作成。子供のニーズに合わせ、講師を招聘した授業も提供
（天文学、建築、演劇等）

▲ 同校敷地内

▲ 同校の子供たち ▲

現地の子供の声（インタビュー）

✓学園の自由なところがいい

✓カリキュラムを自由に選べるのがいい

✓空き時間を特に好んでおり、自分の興味を深める時間として活用

✓動物に関わる仕事に興味があり、自分で資料を探して勉強している

✓話合いの場がたくさんあるのがいい

無界塾実験学校

✓ 台湾大学の葉教授が設立した実験学校
→テスト中心の詰込み型教育に疑問を感じ開校

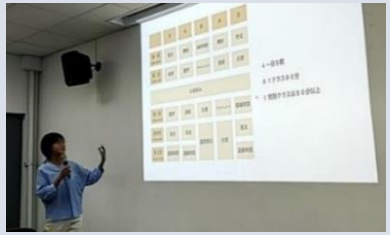
✓ 「By The Students」を理念として、生徒中心の学習環境を構築し、自主的な思考、チームワーク、積極的な問題解決能力を育成

▲ 同校の正門前

現地の子供の声（学習内容の発表）

✓選択科目やプロジェクトの科目では、自分の興味を追求できる
→実験やプログラミングなどの多彩な科目を自分で選択

✓将来の計画も自分で考え、自分の夢に向かった学びができる



▲ 日本語で発表する生徒
（展覧会の開催や広告の制作を説明）

▲ ドイツから帰国の生徒
（起業に必要な経営学等を勉強中）

※実験学校：既存の枠組みにとらわれない、オルタナティブスクールとして誕生し、2014年の実験教育３法の成立により、「実験学校」が公立学校として制度化

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

有識者会議　豊富な知見・経験を有する有識者が**専門的な観点から議論**

委員からの意見

※第１回～第３回での意見要旨（抜粋）

【会議名】

「学校外での子供の多様な学びに関する有識者会議」

【開催日】

（第１回）　2023年7月26日
（第２回）　　同10月11日
（第３回）　　同12月26日

有識者会議　委員	
学習院大学文学部教授、東京大学名誉教授	秋田 喜代美
認定特定非営利法人カタリバ代表理事	今村 久美
東京学芸大学教育学部教授 東京学芸大学こどもの学び困難支援センター長	加瀬 進
東京ウエストインターナショナルスクール学校長	川崎 由起子
株式会社steAm代表取締役	中島 さち子
医療法人社団益友会 どんぐり発達クリニック理事長	宮尾 益知

（ 2024年１月現在、五十音順、敬称略）

- ✓ **心を休める段階には居場所が必要**。そして、伴走する形で、その子供に応じた**個性を伸ばせる学びに再接続**をしていく
- ✓ フリースクールを子供が利用する場合でも、**行政・学校がそれをしっかり把握し、事業者とコミュニケーション**をとりながら、子供を一緒に育む視点を持つべき
- ✓ **フリースクールに通う子供の状況**について、**学校とコミュニケーションが取れるようなツール**を作っていくべき
- ✓ フリースクールの中の学びだけではなく、その子が**自立・社会参加をしていくために、学校や家庭も含め様々な観点から、子供をサポートするためのツールを作成**していくべき
- ✓ **保護者の心を休める民間の施設や団体のコミュニティも大切**。そのような施設や団体に保護者をつなげていくことが重要
- ✓ 子供に凸凹な個性や違いがあることで、保護者の自己肯定感が低くなることがある。**子供の特性について、保護者に理解してもらう機会を提供**できるとよい
- ✓ **学校外の多様な学びの検討**にあたっては、**フリースクールの運営に携わる方から意見や知見をもらいながら進めていく**べき

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

有識者会議での紹介事例

探求学習

試行錯誤の経験を通じて、考える力を身に付けてほしいとの思いから探求学習を実施するスクール

- ✓ **社会課題**に**「見て！触れて！感じて！」をテーマに探求学習**を実施
- ✓ テーマに関連した地域での体験活動や施設訪問を実施することで、**実体験を通じた学び**を実現

「ごみ」に関する探求学習

Step1　地域のごみ拾い活動
Step2　清掃工場等の見学
Step3　トークセッション

清掃工場

子供の声

- ✓ ゴミの分別が大変な仕事だとわかった
- ✓ ゴミを減らすのはその場しのぎにしかならない。モノを使わない方法を見つけなければならない

地域との連携

地域コミュニティとの連携に力を入れ、**幅広い世代と交流**して過ごせるスクール

幅広い世代の中で活動する子供の様子

- ✓ 地域での農作業体験や様々なイベントなど**地域コミュニティの中で子供が積極的に活動**
- ✓ **地域における様々な体験活動**の中で、子供の**社会性を育成**

子供の声

- ✓ コミュニティ農園のかき氷屋さんは、小さい子が沢山来てくれていて、すごく可愛かったし楽しかった

保護者の声

- ✓ 集団の中で学ぶことが親子共にあり、**存在を認めてくれる、共に分かち合う、仲間**に出会えた。**一人ひとりを受け止めてくれる貴重な場所**

〈表現は原文のとおり記載〉

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

有識者会議での紹介事例

保護者への支援

保護者向け勉強会の開催による子供の特性の理解促進など
家族支援にも力を入れるスクール

発達特性等に関する
保護者向けの勉強会

保護者向けの情報交換会

- ✓ 定期的に、**保護者向けにテーマを設定した勉強会を開催**し、保護者の**子供の特性等に対する理解向上**に努めている
- ✓ オンラインでのお話会や、LINE等を活用した**日々の個別相談**を実施。**悩みを抱える保護者を積極的にサポート**

保護者の声

- ✓ **発達障害の子供達の直面する課題に対する理解**が深まり、具体的にどのように支援していったらよいか教えていただいて助かっています
- ✓ 毎回様々な角度から子供達の困り感、保護者の不安に寄り添った内容の勉強会で、とても有難いです。また、不登校や発達凸凹などの生きづらさを抱える**子供の親同士のコミュニティの場としての役割**もあり、**共に寄り添い、学べる仲間**がいることで、親自身が不必要な不安を抱えずに、**日々我が子と向き合える糧**になっています

〈表現は原文のとおり記載〉